

明星大学教則

平成25年4月1日
制 定

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この教則は、明星大学学則（以下「学則」という。）第3条の2他にに基づき、学部又は学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的等、並びに明星大学（以下「本学」という。）の学生の学修について必要な事項を定める。

(適用)

第2条 この教則は、本学の学部在籍する学生（以下「学生」という。）に適用する。ただし、学則第57条及び第58条により入学を許可された者は除く。

(人材の養成に関する目的等)

第3条 学則第3条の2に基づき、学部又は学科等（以下「学部等」という。）の人材の養成に関する目的は、別表第1に定めるとおりとする。

2 本学及び学部等のその他教育研究上の目的を構成する学位授与方針、教育課程編成・実施方針、及び入学者受け入れ方針等は、別表第2、別表第3及び別表第4に定めるとおりとする。

第2章 進級基準・卒業の要件

(進級基準)

第4条 学則第28条に基づき、各学部教授会が定める進級基準は、別表第5のとおりとする。

(卒業の要件)

第5条 学則第33条に基づき、各学部教授会が定める卒業の要件は、別表第6のとおりとする。

第3章 履修について

(履修登録)

第6条 学生は、学則第22条に基づき、毎学年次のはじめの指定された期間に、履修しようとする授業科目の登録（以下「履修登録」という。）を行わなければならない。

2 履修登録をしていない授業科目は、単位を修得することはできない。

3 学部長が必要と認めるとき、第1項に定める指定の期間以外に、履修登録をした授業科目の追加又は取消しを行うことができる。

(履修登録の条件)

第7条 履修登録できる授業科目は、入学年度に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

2 前項にかかわらず、編入学した者が履修登録できる授業科目は、編入学した学年に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

3 履修登録は、原則として授業科目ごとに指定された学年又はクラスで行わなければならない。

4 同一科目を重複して履修登録すること、及び既に単位を修得した授業科目を履修登録することはできない。

5 学則第32条に基づき、1年間に履修できる授業科目の単位数は、45単位を超えることはできない。ただし、卒業要件に含まれない全学共通キャリア形成科目及び全学共通教職・資格科目を履修する場合の上限は、50単位とする。

(再履修)

第8条 学生は、当該年度に履修した科目の単位を修得できなかった場合、再度履修登録すること（以下「再履修」という。）ができる。

第9条 4年生に進級した学生の再履修の必修科目と卒業研究その他の必修科目の授業の時間が重なる場合、受講については学部長が定めるものとする。

(聴講)

第10条 学生は、単位修得を目的とせず、本学が開設する授業科目を受講すること（以下「聴講」という。）ができる。

2 聴講を希望する学生は、在学生聴講許可願により当該授業科目を担当する教員の許可を得たのち、教務ユニットに届け出なければならない。

第4章 授業について

(開講期間による授業科目の種類)

第11条 開講期間による授業科目の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 通年科目 : 学年30週にわたって開講する科目
- (2) 前学期科目 : 前学期15週にわたって開講する科目
- (3) 後学期科目 : 後学期15週にわたって開講する科目
- (4) 集中講義科目 : 一定期間に集中して開講する科目
(授業時間)

第12条 授業を行う時間帯は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 1時限目 9:00~10:30
- (2) 2時限目 10:45~12:15
- (3) 3時限目 12:55~14:25
- (4) 4時限目 14:40~16:10
- (5) 5時限目 16:25~17:55
- (6) 6時限目 18:10~19:40
(緊急時の措置)

第13条 台風・大雪・地震等の各種自然災害、大規模な事故・ストライキ等による交通機関の運行停止及びその他不測の緊急事態の発生又は発生が予測される場合、学長は授業の中止、休講又は短縮等の措置をとることができる。

- 2 前項に係る情報伝達は、学内放送及び本学のウェブサイト等適切な方法で行う。
- 3 前2項は、試験にも適用する。
(学修等に関する情報伝達)

第14条 学修等に関する情報伝達は、原則として、本学の所定の掲示板にて行う。ただし、必要に応じて、本学のウェブサイト等を使って情報伝達を行う。

(正当な理由による授業欠席の取扱い)

第15条 学則第25条に定める正当な理由とは、大学又は公的事由及び私的事由とする。

- 2 前項に定める大学又は公的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。
 - (1) 教育実習、福祉実習、介護等体験及びインターンシップ等の実習科目等
 - (2) 本学が主催する留学
 - (3) 裁判員裁判への出席
 - (4) 感染症
 - (5) 課外活動
 - (6) 就職試験
 - (7) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由
- 3 前項第4号に定める感染症とは、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。
- 4 第2項第5号に定める課外活動により授業欠席を考慮される団体は、次の各号に定めるとおりとする。
 - (1) 明星大学学友会規約により公認された体育会又は文化会に所属する団体
 - (2) 明星大学吹奏楽団及び明星フィルハーモニー管弦楽団
- 5 第2項に定められた事由により授業を欠席する学生は、半期2回までの欠席を当該授業科目の受験資格に係る授業回数から除外する。
- 6 第1項に定める私的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。
 - (1) 交通機関の遅延
 - (2) 忌引き(配偶者及び第1から第3親等)
 - (3) 傷病(感染症を除く)
 - (4) ボランティア活動
 - (5) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由
- 7 授業欠席の取扱いについて、各学部長の判断が異なる事由については、学長が判断するものとする。
(授業欠席の届出)

第16条 前条により授業を欠席する学生は、別表第7に定める必要書類を添え、当該授業科目の担当教員に提出しなければならない。

第5章 試験について

(試験)

第17条 学則第24条に定める「定期的に行う試験」は、主として学期末に行う試験をいう。ただし、授業科目によっては、授業期間内で随時行うことがある。

- 2 学則第24条に定める「臨時的に行う試験」は、追試験とする。
- 3 試験には、レポート等成果物によるものを含む。
(レポート等成果物の提出)

第18条 学生は、レポート等成果物を提出する場合、当該授業科目の担当教員の指示に従い、指定された期日までに指定された場所に提出しなければならない。

(受験)

第19条 試験を受験する学生は、試験監督者の指示に従わなければならない。

2 前項に定めるもののほか、学生は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 学生証を携行し、机上に提示すること。学生証を忘れた者は、受験許可票の交付を受け、提示すること。
- (2) 受験のために使用を許可されたもの以外の物品は、指示された場所に置くこと。
- (3) 答案用紙には、氏名及び所属する学部・学科・学籍番号を明瞭に記入すること。
- (4) 配布された答案用紙等は、退出の際に必ず提出すること。

3 原則として、試験開始後20分を超えて遅刻した場合、当該授業科目の試験を受験することはできない。

(追試験)

第20条 学則第26条に基づき、追試験を願い出ることができる事由とは、大学又は公的事由及び私的事由とする。

2 前項に定める大学又は公的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 教育実習、福祉実習、介護等体験及びインターンシップ等の実習科目等
- (2) 本学が主催する留学
- (3) 裁判員裁判への出席
- (4) 感染症
- (5) 課外活動
- (6) 就職試験
- (7) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

3 前項第4号に定める感染症とは、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。

4 第2項第5号に定める課外活動により追試験を願い出ることができる団体は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 明星大学校友会規約により公認された体育会又は文化会に所属する団体
- (2) 明星大学吹奏楽団及び明星フィルハーモニー管弦楽団

5 第1項に定める私的事由とは、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 交通機関の遅延
- (2) 忌引き（配偶者及び第1から第3親等）
- (3) 傷病（感染症を除く）
- (4) ボランティア活動
- (5) その他、学生が所属する学部の学部長が認めた事由

6 追試験について、各学部長の判断が異なる事由については、学長が判断するものとする。

(追試験の願い出)

第21条 前条により追試験を願い出る学生は、指定の期日までに追試験受験許可願及び必要書類等を教務ユニットへ提出し、学部長の許可を得なければならない。

2 追試験に必要な書類及び試験料、並びに採点基準は、別表第8に定めるとおりとする。

第6章 成績について

(成績の評価)

第22条 学則第27条に基づく各授業科目の成績の評価、評語及び評価基準は、別表第9のとおりとする。

2 修得した成績の評価を取り消すことはできない。

(成績の評価に係る異議申立て)

第23条 学生は、成績の評価に対する異議があるときは、別表第10に定める条件を満たした場合のみ当該成績に係る異議申立てをすることができる。

2 成績に係る異議申立てを希望する学生は、指定された期間内に、教務ユニットに必要書類を提出しなければならない。

(GPAによる成績評価)

第24条 GPA（グレードポイントアベレージ）とは、履修登録したGPAの対象となる授業科目（以下「GPA科目」という。）の試験成績の評語ごとにGPを付して当該授業科目の単位数を乗じ、その総数をGPA科目の総単位数で除した値のことをいう。

2 本学が定めるGPは、別表第11のとおりとする。

3 GPAは小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で表す。

4 不合格科目を再履修した場合、再履修の評価が前の評価に上書きされ、上書きされる前の当該単位数は総履修登録単位数から除外される。

- 5 GPA科目は、原則として、合否判定科目と単位認定科目を除く科目とし、卒業研究や教職・資格科目を含むものとする。

第7章 学修上の倫理に反する行為について

(学修上の倫理に反する行為)

- 第25条 学則第55条に定めるもののほか、学修上の倫理に反する行為は、次の各号に定めるとおりとする。
- (1) 代返等、授業時の出席確認の際の不正行為
 - (2) 他人のアイデアの盗用等、レポート等成果物提出の際の不正行為
 - (3) 私語等授業の秩序を乱す行為
 - (4) その他、前3号に定める行為に準ずる行為
- 2 前項に定める行為があった場合は、学長又は当該学生が所属する学部長が関係部署の意見を聴いて、嚴重注意等を行うことができる。
- 3 前項の定めにかかわらず、学長が、第1項に定める行為について、重大又は悪質であると判断した場合、明星大学学生の懲戒に関する規程に基づき処分することができる。

第8章 その他

(委任)

- 第26条 この教則に定めるもののほか必要な事項は、学部長会の意見を聴いて、学長が定める。

(改廃)

- 第27条 この教則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この教則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、2019年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、2020年4月1日から施行する。

別表第1

別表第2-1～別表第2-2

別表第3-1～別表第3-3

別表第4-1～別表第4-2

別表第5

別表第 6 - 1 ~ 別表第 6 - 1 0
別表第 7 及び別表第 8
別表第 9 ~ 別表第 1 1

別表第1 学部・学科の人材の養成に関する目的

<p>1. 理工学部</p>	<p>理工学部は、技術立国日本を支え、人類の豊かさに貢献するため、幅広い教養と、理学と工学の知識と技術を基礎とした「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い技術者を育成する。</p> <p>(1) 物理学系 物理学系では、自然界にある法則性を実験や観測により実証し、数学を活用して論理的に理解するという態度を身に付けさせ、物事を探求する力を養う。『「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い人材』の理念のもとで、豊かな科学社会を支え、多様化する現代の科学技術に適応できる人材を育成する。</p> <p>(2) 生命科学・化学系 生命科学・化学系では、生物科学及び分子化学に関する知識や技術を、講義や各分野での実験とプロジェクト活動を通して身に付け、これらの活動により、客観的・論理的に研究を進める多角的な思考力を修得し、ライフサイエンス、ナノサイエンスの分野において活躍する人材を育成する。又、教育界の人材需要を考慮し、現代科学の先端分野の知識を有し、体験教育を実践できる教員養成にも取り組む。</p> <p>(3) 機械工学系 機械工学系は、機械工学の基礎となる物理学と数学を理解し、設計を行う上で必要な材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、航空宇宙分野の基礎知識を修得して、新材料の開発・研究及び新システムによる制御や人工知能に至るまでの最新技術を学び、さらに、関連する分野に興味を持ち、機械・航空宇宙を中心とした産業の持続的発展への探求心・好奇心・責任感・実践力のある人材を育成する。</p> <p>(4) 電気電子工学系 電気電子工学は、数学、物理学に基づいた基礎技術分野と、日々進化する新技術分野が有機的に結びついて、新たな技術分野へと発展していく特徴を持っている。現在、電気電子工学が適用される技術は、社会インフラ、エネルギー、情報通信をはじめとした、生活のあらゆる局面にて必要不可欠となっている。このような背景のもと、電気電子工学系では学生に基礎技術と関連する周辺技術を修得させ、多様な実業分野で活躍する人材を育成する。</p> <p>(5) 環境科学系 環境科学系が目指す人材は、生活者として環境に配慮し、職業を通して環境保全のための貢献ができる知識と実行力を持つ技術者である。環境問題は、生産や流通の場において解決や改善を図ることが可能なものが多いが、環境科学系の卒業生が志向するところは、環境問題をより総合的にとらえることが要求される職場である。基礎学力の充実を図り、その上で実践的な専門知識と高い技術者倫理を備え、環境問題を解決する強い意思と能力を持った人材を育成する。</p>
<p>2. 人文学部</p>	<p>人文学部は、人間の尊厳に関心を持ち、幅広い教養と人間と社会に対する専門的教養を身に付け、人文科学に基づく専門性と積極的かつ実践的に問題解決に取り組む資質を持って社会に貢献する人を育成する。</p> <p>(1) 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科は、幅広い教養を身に付け、コミュニケーション・言語研究・異文化理解の領域を横断的に学ぶことを通して、豊かな専門的力を有し、他者と積極的に関わりながら、互いに理解・協力して問題解決を図り、ビジネス・教育・国際協力などの分野で社会貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 人間社会学科 人間社会学科は、幅広い教養及び社会学的な思考と社会調査に関する専門知識を有し、市民生活において主体的に物事に関心を持ち、多様な他者の存在を受け入れながら、論理的かつ複眼的な視点から問題を解明する社会学的視点を身に付け、不断に自分の人生をデザインできる人材を育成する。</p> <p>(3) 日本文化学科 日本文化学科は、幅広い教養を身に付け、日本の伝統文化を深く理解し、それを継承発展させ、伝統的側面と比較文化的側面の両面から、世界の中の日本文化の立場と意味を理解し、その独自性と普遍性を積極的に広く発信でき、自らの考えについての的確な日本語運用能力をもって表現できる人材を育成する。</p> <p>(4) 福祉実践学科 福祉実践学科は、幅広い教養と福祉分野の素養を基礎に専門的力を有し、福祉の視点と技術を活用できる福祉社会人と、ソーシャルワークの専門性を備えた実践力のある福祉職業人を育成する。</p>
<p>3. 経済学部</p>	<p>経済学部は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を実現するため、グローバル社会を視野に入れて、経済の専門知識、問題解決のための教養とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。本学部の目標は、企業活動を通じ社会に貢献できる、地域の活性化・発展に貢献できる、社会生活に関わる現場で活躍できる等、社会の多様なニーズに応えうると共に、それに必要な情熱と人間味を備えている人材を輩出することにある。</p>
<p>4. 情報学部</p>	<p>情報学部は、社会の発展や情報技術の進化に柔軟に対応できる能力と、情報学に関わる基礎知識や専門知識を有し、その基盤分野及び応用利用分野で幅広く活躍し、倫理観をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計算機/情報システムについての知識を有し、それらを構築・管理・保守する技術・技能を身に付けた人材 2. 統計学・数理科学を中心とした文理を問わない周辺領域についての知識及びそれらを探求する姿勢・態度を有する人材 3. 各分野に対応可能な実用的な問題解決能力を有し、活用することによって課題解決できる人材 4. 幅広い教養を身に付け、社会の変化に対応した情報の活用を提案・具現化することができる人材
<p>5. 教育学部</p>	<p>教育学部は、人間に対する深い洞察力と共感的態度を養い、学校教育及び保育・幼児教育についての専門的な知識と技能並びに幅広い教養を身に付けた教員、保育士及び教育・福祉に創造的に関わる人材を育成する。</p>

6. 経営学部	経営学部は、経営の全体像と専門分野で身に付けたスキルを生かし、情報化、国際化、社会発展への貢献など多様化する企業及びその他の組織体の行動様式を広く科学的、実践的に捉え、経営の進路を創造的に切り拓く、豊かな人間性を備えた人材を育成する。同時に高い教養と常識、経営の専門知識と技能を持ち、経営に関する問題の発見とその解決能力を身に付け、広い視野と協調性に富み、企業・その他の組織体並びに社会に貢献できる人材を育成する。
7. デザイン学部	<p>1. デザインの本質の一つである実現可能な「企画」を提案する能力と様々な分野に応用・展開できる能力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>2. 培われた説得力のある「表現力」を発揮して、社会に貢献できる基礎能力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>3. あらゆる場面で「企画力」と「表現力」を活かし、社会における自分の責任と価値を見いだすことのできる人材を育成する。</p>
8. 心理学部	<p>心理学部では、実践的教養としての心理学に関する専門的知識及び技能をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。</p> <p>1. 人間一般の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材</p> <p>2. 社会集団の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材</p> <p>3. 青年期・成人期を対象としたアセスメント及びカウンセリングの理論と技能を身に付けた人材</p> <p>4. 幼児期・児童期を対象としたアセスメント及び臨床的介入の理論と技能を身に付けた人材</p>
9. 建築学部	建築学部建築学科は、幅広い教養と建築学に関する専門知識及び実践的な技術を修得することで、時代や環境の変化に対応した安全、健康かつ快適な建築、住宅及び都市空間を創出・提供し、社会に貢献できる人材を育成する。

別表第2-1 明星大学の学位授与方針

明星大学	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)</p> <p>1. 実践的かつ体験的な学びを通じて知識・技能を能動的に修得して、多様な実践の場で自ら課題を発見し、それを解決することができる。</p> <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <p>2. 国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得して、地域社会の発展に寄与しながら、国際社会の発展にも貢献することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <p>3. 学生同士並びに教職員との人格接触を伴う学修を通じ、自己を律するとともに自己を確立し、自らの目標を明確に定め、社会に貢献することができる。</p> <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <p>4. 多様な価値観を受け入れることができる自立した市民に相応しい幅広い教養を修め、社会的倫理に従って自己を律しながら、多様なコミュニケーションの方法を用いて、修得した教養を社会のために役立てられる。</p> <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <p>5. 国内外の社会に専門的技術・技能を以て貢献しうる証として種々の資格を取得している。あるいは、資格化されていないものの、社会に貢献しうる技術・技能、又は技術・技能の基礎を成す資質を修得している。</p>
------	---

別表第2-2 学部・学科の学位授与方針

1. 理工学部	<p>(1) 物理学系</p> <p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)</p> <p>1. 実験・演習を通して物理学の基礎的な理解を深め、研究・開発・教育の現場で課題を発見し、解決することができる。</p> <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <p>2. 科学、物理学の視点を持って研究を遂行し、地球規模の問題解決に寄与すると同時に、修得した技術や知識をもって地域や社会に貢献することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <p>3. グループワークでの実験を通じ、他者と協働して問題解決に取り組むことができる。</p> <p>4. 技術者・研究者・教育者としての倫理観を備え、行動することができる。</p> <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <p>5. 物理学を体系的に理解し、身近な現象と結びつけて考えることができる。</p> <p>6. 十分なコミュニケーション能力を有し、物理学の知識を他者に伝えることができる。</p> <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <p>7. 多様な実践の場で求められる実験・調査・データ解析の技術を身に付けている。</p> <p>8. 数理的・論理的な思考能力を身に付けている。</p>
	<p>(2) 生命科学・化学系</p> <p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)</p> <p>1. 卒業研究を通して客観的な視点から課題を発見し、解決に至る方法を論理的に考えることができる。</p> <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <p>2. 専門分野のみならず、関連分野にも積極的に関心を広げ、社会的要請に応えるための思考力を身に付けている。</p> <p>3. 大学教育を通して培った知識や技術を活かし、産業界への貢献に寄与することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <p>4. シルベニオンを占める講義、実験を通して、協働性及び課題解決に取り組む姿勢を身に付けている。</p> <p>5. 研究者・教育者として、倫理的な行動を取ることができる。</p> <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <p>6. 専門科目での講義、実験から得た知識を基に、生命科学分野及び化学分野の基礎を理解している。</p> <p>7. 分子生物学を中心とした生命科学及び化学を体系的に理解し、産業界のみならず、社会全般における両分野の重要性を認識している。</p> <p>8. 論文や学会発表を通して学術成果を社会に発信し、還元できる能力を有している。</p> <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <p>9. 文献調査及び技術情報の収集を通じて、実践的な技術や思考能力を身に付けている。</p> <p>10. 講義やゼミナールを通して、英語による情報発信能力を身に付けている。</p>
	<p>(3) 機械工学系</p> <p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)</p> <p>1. 機械工学分野の課題を探求し、その課題を分析し、技術的解決への道筋を見つけ、解決することができる。</p> <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <p>2. 関連する分野を理解し、判断・行動することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <p>3. 工学的な問題に対して倫理観・責任感をもって誠実に対応することができる。</p> <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <p>4. 基礎となる物理学と数学を理解し、応用することができる。</p> <p>5. 専門領域において、基礎的知識から最新技術までを理解し、製品設計などに適用できる能力を身に付けている。</p> <p>6. プレゼンテーションで自らの考えを端的に発表・説明することができる。</p> <p>7. 関連する研究分野の文章の読み書きや質問に対して、誠実に説明・議論することができる。</p> <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <p>8. 要求に応える性能を有した機械設計を行うことができる。</p> <p>9. 設計上の制約条件に基づいた計画を行い、時間的な制約も守ることができる。</p>
	<p>(4) 電気電子工学系</p> <p>【課題発見・解決】</p>

(実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)

1. 目標と現実の差異を客観視することで、課題を発見することができる。
2. 発見した課題を、従来の経験や既存の理論をそのまま適用するのではなく、自身の力で実際に一つ一つ解決することができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

3. 電気電子工学領域のみならず、さまざまな領域に関心を持ち、絶えず自己研鑽し、専門家としての姿勢を有している。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

4. 物事を論理的に分析し、迅速に問題解決に向けた判断を行うことができる。
5. 電気電子工学にとらわれない独創性や創造性に富む発想力を有している。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

6. 電気電子工学領域の基礎知識群とそれを基礎とした研究活動から生じる学術成果を獲得している。
7. 学術成果を社会に積極的に発信し、社会で生じている諸問題の解決に応用することができる。
8. 異文化を理解するための幅広い教養を身に付けている。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

9. 設備・機器から得られた情報を有用化し、その中から規則性を論理的に分析し、必要な技術を生み出すことができる。
10. 日本語による論理的な発表・討議を行う技術を有し、外国語においても実現可能なコミュニケーション能力を有している。

(5) 環境科学系

【課題発見・解決】

(実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)

1. 環境問題における解決すべき具体的な課題を抽出・分析し、課題に関わる制約条件を考慮した解決策を計画的に立案することができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

2. 人間社会と環境の関わりについて、地球的視点に立って観察する知識と環境を保全する行動力を備え、地域及び国際社会に貢献することができる。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

3. 環境技術が社会の持続的発展の基本であることを認識している。
4. 技術者倫理に基づき行動し、将来にわたり技術者として活躍するため持続的に研鑽し、他者と協働することができる。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

5. 環境技術者に必要な基礎学力とその応用能力を有している。
6. 環境技術分野において必要な専門的知識とその応用能力を有している。
7. 環境技術分野の情報や意見を的確に理解し、他者に伝えることができる。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

8. 環境技術を応用するにあたり必要なハードウェア・ソフトウェアを利用する能力を有している。

2. 人文学部

(1) 国際コミュニケーション学科

【課題発見・解決】

(実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)

1. 主体性と目的意識をもって情報を収集・分析し、課題を発見することができる。
2. 知識・技術・技能を総合的に活用し、主体的・積極的に課題解決に取り組むことができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

3. 様々な目的・場面に応じて、柔軟に思考・判断することができる。
4. 幅広く多様な視点に立ち、矛盾や問題点を明らかにする分析能力と、問題解決に主体的に取り組む実践力を有している。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

5. 他者と協調・協働するための円滑なコミュニケーションを図ることができる。
6. 遵法精神をもって、組織で問題解決を図ることができる。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

7. 異文化を理解し、言語・文化的な幅広い知識・教養を備えたコミュニケーション能力を身に付け、グローバルな社会で必要となる文章の読解と作成ができる。
8. 組織や社会で必要となる文章の読解と作成ができる。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

9. グローバル化した社会において、日本語、英語又は中国語の言語システムを理解し、活用できる。

(2) 人間社会学科

【課題発見・解決】

(実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)

1. 現実の社会的な問題を認識し、問題に対処することができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

2. 社会的事象を、広い視野から論理的に考察することができる。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

3. 自分の考えを明確にすることができる。
4. 多様な他者と協働して、問題解決にあたることができる。
5. 不断に自分の人生をデザインすることができる。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

6. 社会学の専門的知識を修得している。
7. 多様な他者の存在を理解することができる。
8. 自分の考えを他者に伝えることができる。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

9. 社会調査の技法を理解し、活用することができる。
10. 社会的事象を、実証的に分析することができる。

(3) 日本文化学科

【課題発見・解決】

(実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)

1. 体験学習及び演習等での能動的な学修を通じ、伝統文化の保存や現代文化の活性化のための課題を見つけ、それを解決することができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

2. 日本の伝統文化の形成過程について正しく理解し、日本の伝統文化の多様性を具体的に述べるができる。
3. 日本の代表的な作品や文章を自らの力で正確に読解できる。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

4. 日本の伝統文化とその多様性に興味を持ち、体験を通じて学ぶ姿勢を有している。
5. 日本の現代文化及びそれに影響を与えた外国文化に強い興味・関心を寄せることができる。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

6. 日本語のしくみについての基本的な知識を身に付けている。
7. 海外を含む多様な人とコミュニケーションがとれ、自分の理解や意見を正確に発信できる。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

8. 日本の伝統文化における課題について説明することができる。
9. 外国文化との交流を踏まえて、日本の現代文化の課題について説明することができる。

(4) 福祉実践学科

【課題発見・解決】

(実践躬行の体験教育を通じた統合的学修による課題発見・解決力)

1. 多様な実践の場で自ら地域社会における福祉的課題を発見し、それを解決することができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

2. 社会福祉の視点をもとに、社会的倫理及び国際化に対応する幅広い視野と多様性を受け入れる創造的思考力及び判断力を修得している。
3. 福祉社会人あるいは福祉職業人、市民として、誰もが住みやすい地域社会づくりに関するニーズの着眼力を修得している。
【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)
4. 学生同士並びに教職員、当事者、福祉専門職、企業職員、地域住民との人格接触を伴う学修を通じ、自己を律すると共に自己を確立している。
5. 自らの目標を明確に定め、福祉社会人や福祉職業人、市民として社会に貢献することができる。
【知識・理解・表現】
(社会を支える幅広い教養)
6. 多様な価値観を受け入れることができる自立した市民に相応しい幅広い教養を修めている。
7. 体験的な学びを通じて、福祉分野の知識・技能を能動的に修得している。
【技術・技能】
(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)
8. 国内外の社会に貢献しうる、多様なコミュニケーション能力及び、ネットワーク形成や問題解決に関わる技術・技能を修得している。
9. 社会福祉士をはじめ、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカー等の福祉分野の資格取得に求められる基本的な技術・技能を身に付けている。

3. 経済学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会の諸問題に対して経済学的な視点で分析することができる。 2. 経済学に加えて法学・商学・会計学の知識とスキルを用いて、経済社会の諸問題に対する解決策を提案することができる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 地域の経済社会的な課題を解決するために必要な制度上の知識と実践的手法を身に付けている。 4. 経済社会の諸問題を世界的視野と歴史的視点で捉えることができる。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 所属する組織や社会における自らの役割と任務を認識し、主体的にこれらに貢献することができる。 6. 議論などを始めとしたあらゆる場面において異なる意見を受け止め、理解することができる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 経済学の基礎知識を修得している。 8. 法学・商学・会計学の基礎知識及びビジネスの実践的な知識を修得している。 9. 文書又は口頭により、自らの考えを論理的かつ正確に伝えることができる。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 経済社会の動向を経済学に必要な数量的手法を用いて説明することができる。
4. 情報学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の柔軟な運用や分析、社会的技術的な課題への対応・対策等のスキルを有し、活用することができる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 社会や経済活動に関する周辺知識を有し、科学的思考により情報を多面的に捉えることができる。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 多様な人間や考え方から成る文化や習慣、さらに自己を理解した上で、倫理観を持って能動的に行動・協調・協働することにより、情報を核とした社会の発展に貢献できる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 情報を扱う人間社会や、システムを構築し活用するための技術・制度・組織を理解している。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 情報一般やコンピュータで処理される情報の原理を理解した上で、情報を扱う機械及び機構を設計し、実現するための技術を身に付けている。
5. 教育学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもや教育に関する状況の中から課題を発見し、関係者と協働しながら、課題の解決のための重点や手立てを探究し、計画を立て、実行し、評価し、更に改善を進めていくことができる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 人間や社会への深い洞察の下、子どもの資質・能力を豊かに発展させるため、学習指導・生徒指導・学級経営や保育などの在り方を創造的に考える力や、状況に応じた的確に判断する力を身に付けている。 3. 学習指導・生徒指導・学級経営や保育などの在り方を論理的に説明し、協議することのできる表現力を身に付けている。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 子どもや教育をめぐる状況に関心を持ち、教育や保育の充実改善に主体的、協働的に取り組むことができる。 5. 子どものよりよい成長発達を支える役割を自覚し、進んで学び、識見を豊かにし、専門的、実践的な力量を高め続けることができる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. よりよい教育や保育を計画し展開するために必要な専門的な知識を理解している。 7. 教育や保育の基盤となる人間や社会等についての幅広い教養を身に付けている。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 学習指導・生徒指導・学級経営や保育などを効果的に進め、子どもの資質・能力を豊かに発展させるために必要な技術・技能を身に付けている。 9. 教育や保育に必要な情報を適切に収集・選択し活用できる技術・技能を身に付けている。

6. 経営学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 経営学の知識を生かしながらも、硬直的な理論にとらわれず柔軟な行動をとることができる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 経営学の知識を用いて論理的かつ柔軟に思考することができる。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 世の中の動きに関心を持ち、地域社会の一員として貢献できる能力を身に付けている。 社会人、企業人又は組織人として生涯自発的に学ぶ能力を身に付けている。 人間関係と組織活動を重んじ、グループの一員として、同僚と協働して作業を行うことができる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <ol style="list-style-type: none"> 正しい経営活動における知識と技術を理解し、実践及び表現することができる。 企業及びその他の組織体の社会的責任と統治能力を理解することができる。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 科学的な調査・分析手法を用いて論理的に物事を理解することができる。 身に付けた経営学の知識を生かし、企業活動に役立てることができる。
7. デザイン学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <p>分析力・発想力・統合力=企画力</p> <ol style="list-style-type: none"> 身の周りの生活や社会を調査・分析し、自ら課題を発見することができる。 調査・分析をもとに様々なアイデアを発想することができる。 課題を解決するためのアイデアを具体的かつ魅力的な企画にまとめることができる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <p>デザイン思考・社会貢献</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々な社会に最適な「ヒト・コト・モノ」の関係性を創造的に思考し、判断することができる。 幅広い視野に立って判断し、社会の発展に貢献することができる。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <p>社会に対する関心・工夫する力</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会に対して幅広い関心を持ち、社会貢献につながる自らの目標を明確に定めることができる。 困難に対してあきらめず、工夫と努力を続けることができる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <p>デザインに関する知識・コミュニケーション力</p> <ol style="list-style-type: none"> デザインの活動に必要な幅広い知識と教養を有している。 デザインの活動に必要なコミュニケーションの意義と方法を理解している。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <p>美的構成力・プレゼンテーション力</p> <ol style="list-style-type: none"> 企画やアイデアを、資料や具体案として美的に構成することができる。 企画やアイデアを明快にプレゼンテーションすることができる。
8. 心理学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 実習で体験的に修得した方法論や技法を駆使して、独力で問題を発見し、その問題に対処できる。 <p>【思考・判断】 (グローバルな思考に基づく社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国語文献の読解も含むグローバルな探究で得られた最新の知見を活用して、個人・集団・地域社会等の現実的な諸問題に対処できる。 <p>【関心・意欲・態度】 (自己確立による社会貢献)</p> <ol style="list-style-type: none"> 科学的・実証的探究の成果としての卒業研究の完成に繋がる4年間の学びを通じて、自ら目標を見出し、その目標を達成するために自律的・計画的に行動することができる。 <p>【知識・理解・表現】 (社会を支える幅広い教養)</p> <ol style="list-style-type: none"> 心理学の学びから培われるバランスのとれた人間観に基づき、他者を理解し社会内存在として自己を相対化できる。 科学的探究としての卒業研究を通じて、説明やプレゼンテーションによる相互理解を実現できる。 <p>【技術・技能】 (社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 心理学の学びを通じて培われた実践的教養としての論理的思考やコミュニケーションによって、社会の多様な場面での価値創造や相互理解構築に貢献できる。
9. 建築学部	<p>【課題発見・解決】 (実践躬行の体験教育を通した統合的学修による課題発見・解決力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築学の専門知識に基づき、都市や地域が抱える今日の課題を発見し、その解決案を提案できる。 建築学の専門知識を応用して、自ら課題を設定し実証的な手法を用いて研究論文の作成、又は社会的・客観的視点に立脚した建築設計を行うことができる。

【思考・判断】

(グローバルな思考に基づく社会貢献)

3. 自然科学分野に加え、社会科学・人文科学分野を含めた幅広い教養を用いて、建築を歴史・社会・人間と関連付けて思考することができる。

【関心・意欲・態度】

(自己確立による社会貢献)

4. 建築に携わる職業人としての社会的役割と責任について理解している。

5. 他者との協働作業において、他者の立場や意見を尊重し、チームの成果に貢献することができるコミュニケーション能力を有している。

【知識・理解・表現】

(社会を支える幅広い教養)

6. 建築学に関する幅広い専門知識を身に付けている。

7. 自らの成果物に関して、論理的かつ合理的に説明できるプレゼンテーション能力を有している。

【技術・技能】

(社会貢献に結びつく資格並びに特別な技術・技能)

8. 建築における総合的(意匠、計画、環境、構造)な設計を行うことができる。

別表第3-1 明星大学の教育課程編成・実施方針

<p>明星大学</p>	<p>明星大学（以下「本学」という。）は全学的な「学位授与の方針（DP）」に掲げる教育目標を達成するために、全学共通科目、全学共通キャリア形成科目及び学部共通科目・学科科目等を体系的に編成する。以下、本学全体のカリキュラム編成の基本的な考え方、教育方法並びに評価方法の基本的な考え方を具体的に示すことで、大学全体としての「教育課程編成・実施の方針（CP）」とする。</p> <p>1. 教育課程編成の考え方</p> <p>（1）実践躬行と学際的な学修 実践的かつ学際的な学びを通して、多角的な視野から積極的に課題を発見し、それを解決する態度や方法を修得させる。</p> <p>（2）初年次教育 「自立と体験」等を通じて、自立した学修の態度や方法を育成するとともに、社会の様々な分野への興味や関心を喚起する。</p> <p>（3）キャリア教育 全学共通キャリア形成科目と学部・学科のキャリア教育とを相互に補完させて、社会的に自立した自己の将来像について考える機会を提供し、社会において果たすべき役割を自覚させる。</p> <p>（4）地域に立脚し「世界」と向き合うグローバルな学び <small>地域に立脚した学修を通して、地域と世界のつながりを理解し、物事をグローバルに捉える判断力を育成する。</small></p> <p>（5）専門教育を補完する幅広い教養教育 教養教育によって幅広い視野や応用力を培うことで、専門教育で生まれた特定領域の知識や技能、並びに専門的応用力を社会の多様な場面で発揮するための基盤を育成する。</p> <p>（6）表現力とコミュニケーション力の養成 日本語並びに外国語による表現力とコミュニケーション力を高めることで、国内外の社会において自らの考えを発信する能力を育成する。</p> <p>（7）情報化社会における倫理教育 高度情報化社会において社会人が持つべき適正な倫理を修得させる。</p> <p>（8）資格や特別な技術・技能の修得 公的な資格の取得や特別な技術・技能の修得によって、専門的な職業人として社会に貢献する能力を育成する。</p> <p>2. 教育方法の考え方</p> <p>（1）実践躬行 本教育方法が適合する科目では、アクティブ・ラーニング等を通して実践的かつ能動的な知識や技術を身に付けながら、学生自身が課題を発見し、その解答を探究する体験的な学修環境を整える。又、それ以外の科目でも、授業担当者は可能な限り学修者中心の学びの機会を提供することに努める。</p> <p>（2）分野横断的な学び 大学として一定の学修テーマを掲げ、その達成に向かって様々な専門領域の学生が学部学科横断的に協働し、学際的に学ぶ機会を提供する。</p> <p>（3）地域社会との連携 本教育方法が適合する科目では、地域社会の様々な分野の人々との連携を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学修を促進する。</p> <p>（4）教育目標の達成度の検証による授業改善 授業の教育目標の達成のために、最終的な教育目標を構成する要件をシラバスに示し、各回の授業内容がそれらの要件に見合うものか否かを授業担当者自身が検証することで、不断の授業改善に努める。</p> <p>（5）カリキュラムの体系性の検証 各学部学科（学系を含む）の教育課程が体系化されているか、又それが教育目標の達成に有効であるかどうかを、カリキュラムマップ等を活用して検証する。</p> <p>3. 評価方法の考え方</p> <p>（1）授業の最終的及び中間的到達目標の明示 本評価方法が適合する科目では、授業の最終的な到達目標に向かう途中で複数の中間的到達目標（以下「チェックポイント」と言う）を設定し、それを受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示すことに努める。</p> <p>（2）チェックポイントのフィードバック 本評価方法が適合する科目では、チェックポイントの到達度を受講生にフィードバックすることによって、最終的な到達目標の達成をより具体的に支援する。</p> <p>（3）チェックポイントの測定による成績評価 本評価方法が適合する科目では、チェックポイントの測定によって最終的な到達目標の達成度合を総合的に判断し、より客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。又、それ以外の科目でも、各授業担当者が科目の到達目標に沿って客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。</p>
-------------	--

別表第3-2 全学共通教育の学修目標及び教育課程編成・実施方針

<p>全学共通教育</p>	<p>【学修目標】 世界に貢献する人として必要な基礎的且つ幅広い教養を身に付け、知性、感情、意志、及び心と体のバランスのとれた人格を育み、総合的な思考力と的確な判断力を土台として、自立し、世界の人々と共生できる人、自ら積極的に学び考える、自己教育能力を持つ人となることを学修目標とする。</p> <p>【教育課程編成・実施方針】 1. 教育課程編成の考え方 全学共通教育は、学修目標を軸として以下の科目グループ（1）明星大学と多摩、（2）情報活用とコミュニケーション、（3）科学的思考科目群、（4）現代社会課題解決科目群、（5）人文知探究科目群、（6）心と体の健康をもって編成されている。このカリキュラムは、学生が各分野の知識・技能を得るだけでなく、生きた教養を身に付けることによって「自己教育」に目覚め、健康で心豊かな自立した市民となるよう構成されている。</p> <p>（1）明星大学と多摩 明星大学と、本学が所在する多摩について理解し、学生生活の基盤を構築させる。</p> <p>（2）情報の活用とコミュニケーション 情報化社会で求められる基本的なコミュニケーション活用能力と情報管理を学修させることにも、グローバル化した社会で生きていくための基本ツールである外国語コミュニケーション能力を身に付けさせる。ただし、外国語学習は単なる「語学」ではなく、異文化に接するための「窓」というスタンスに立って授業を組み立てる。</p> <p>（3）科学的思考科目群 自然科学の科目を通して、科学的思考力を身に付けさせることにも、その役割と付帯について学修させる。</p> <p>（4）現代社会課題解決科目群 社会の仕組みを理解して、現代社会にどのような問題があり、その原因は何かを自ら考え、解決方法を追究する姿勢を養う。</p> <p>（5）人文知探究科目群 日本を含む世界の歴史や文化を学んでその差異の理由を理解し、多様な文化を寛容に受け入れる姿勢を養うとともに、幅広い教養的知見を生かして問題を把握し、適切に判断する能力を身に付けさせる。</p> <p>（6）心と体の健康 運動・スポーツの実践を通して、協調することの重要性や運動文化のルール・マナーを理解させるとともに、健康の保持増進に必要な知識を身に付けさせる。</p> <p>2. 教育方法の考え方 学科科目とは異なり、全学部・学科の学生を対象としていることから、担当教員の専門研究領域を深く掘り下げる形ではなく、自立した市民として身に付けるべき教養という観点から教育を組み立てる。その際、個々の学生が自分の専攻とは必ずしも直結しない教養科目を学ぶことの意義を理解できるよう、担当教員は常にそれを意識した授業を行う。又、特に少人数の授業においては、学生を積極的に授業に参加させて発信を求め、将来にわたって能動的に自己教育を継続していく姿勢を培う。</p> <p>3. 評価方法の考え方 シラバスに授業の到達目標を明示し、そこへの到達度合いを計測することを基本とするが、中間的到達目標を設定することが可能な科目においては中間テスト等を積極的に行い、学生の発展的変化を成績評価に反映できるようにする。又、ペーパーテストに依拠するのみではなく、シラバスに明記することを前提に、受講態度やプレゼンテーション能力等も評価基準に含めることを認める場合がある。</p>
---------------	---

別表第3-3 学部・学科の教育課程編成・実施方針

<p>1. 理工学部</p> <p>(1) 物理学系</p>	<p>総合理工学科</p> <p>理工学部は、「学ぶ意欲に火をつける体験学習」と「問題を発見し、解決できる実践力を身に付ける専門教育」を柱に、理学と工学の基礎的な素養を修得させる「学科共通科目」、専門領域の知識・技術を修得させる「学系科目」、そして学びの集大成としての「卒業研究」に区分して体系的に教育課程を編成する。又、プロジェクト科目や実験・演習科目といった体験教育を重視し、コミュニケーション能力及びチームワークスキルを養う。更に、「学系横断プログラム」を設置し、学系の枠にとどまらずに、より幅広い学問領域にわたる知識を修得させ、活躍できる分野の選択肢を広げるための教育を行う。</p> <p>1. 教育課程編成の考え方</p> <p>物理学系では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)学科共通科目、(2)物理学系科目、(3)卒業研究で編成する。更に物理学系科目を①物理学系基礎、②物理学系応用に区分し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>(1) 学科共通科目</p> <p>学科共通科目は、「導入前科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工学実験」「キャリア教育科目」「教職基礎科目」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。必修科目として、基礎科学科目の「基礎代数学1」「基礎解析学1」、プロジェクト科目の「プロジェクト1～6」及び理工学実験の「理工実験実習1・2」を配置し、数学的思考力の基礎をはじめ、各学系における実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。</p> <p>(2) 物理学系科目</p> <p>①物理学系基礎</p> <p>1年生から2年生にかけて開講される基礎科目で構成する。1年生に「基礎力学1・2」「基礎電磁気学1・2」を必修科目として配置し、自然現象を根幹から理解する方法や、研究・開発・教育に必要な、実験・調査・データ解析の技術と数理的・論理的な思考能力を修得させる。又、2年生に「解析力学1・2」「物理学実験1・2」等、多数の必修科目を配置し、グループワークでの実験等を通じ、他者と協働した問題解決能力、得られた知識を他人に伝えることができる表現力、及びコミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>②物理学系応用</p> <p>2年生から4年生にかけて開講される応用科目で構成する。3年生に「統計熱力学1・2」を必修科目として配置し、地域社会へ貢献することができるような技術や知識を修得させる。又、世界の共通言語である科学、物理学の視点を通し、地球規模の問題を考える能力を養成する。</p> <p>(3) 卒業研究</p> <p>4年生に「ゼミナール1・2」及び必修科目「卒業研究」を配置し、学系の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。</p> <p>2. 教育方法の考え方</p> <p>(1) 実践躬行</p> <p>実験・演習を通して物理学の基礎的な知識や技術を実践的に身に付けながら、学生が主体的に課題を発見し、探求できるような学修環境を整える。</p> <p>(2) 幅広い専門分野の学び</p> <p>幅広い分野の選択科目を用意することによって、特定の専門分野にとらわれず、興味に沿って一層広く深く物理学を学ぶ機会を提供する。</p> <p>(3) 教育目標の達成度の検証による授業改善</p> <p>授業の教育目標の達成度を授業期間内に課題提出で確認し、授業改善に努める。</p> <p>(4) カリキュラムの体系性の検証</p> <p>物理学を学ぶのに必要な教育課程が体系化されているかどうかをカリキュラムマップ等を活用して検証する。</p> <p>3. 評価方法の考え方</p> <p>(1) 授業の最終的及び中間的到達目標の明示</p> <p>授業の最終的な到達目標に向かう途中で課題提出を課し、それによって中間的到達目標を受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示すことに努める。</p> <p>(2) 中間的到達目標のフィードバック</p> <p>提出課題への振り返りにより受講生にフィードバックを行い、最終的な到達目標の達成を支援する。</p> <p>(3) 中間的到達目標の測定による成績評価</p> <p>中間的到達目標に対応したレポートや試験によって、最終的な達成の度合いを総合的に判断し、より客観的な成績評価を行うことに努める。</p>
<p>(2) 生命科学・化学系</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方</p> <p>生命科学・化学系では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)学科共通科目、(2)生命科学・化学系科目、(3)卒業研究で編成する。更に生命科学・化学系科目を①生命科学・化学系基礎、②生命科学・化学系応用に区分し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>(1) 学科共通科目</p> <p>学科共通科目は、「導入前科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工学実験」「キャリア教育科目」「教職基礎科目」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。必修科目として、基礎科学科目の「基礎代数学1」「基礎解析学1」、プロジェクト科目の「プロジェクト1～6」及び理工学実験の「理工実験実習1・2」を配置し、数学的思考力の基礎をはじめ、各学系における実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。</p> <p>(2) 生命科学・化学系科目</p> <p>①生命科学・化学系基礎</p> <p>1年生から2年生にかけて開講され、主に必修科目で構成する。1年生に「基礎生物科学1・2」「基礎化学1・2」、2年生に「分析化学1」「無機化学1」等を必修科目として配置し、化学系の基礎科目及び生命科学系の基礎科目を通して、生命科学・化学領域全般の基礎的総合知識を修得させる。</p> <p>②生命科学・化学系応用</p> <p>2年生から3年生にかけて開講される応用科目で構成する。</p>

講義科目のほか、2年生から3年生にかけて「化学・生命科学実験1～4」を必修科目として配置し、生物科学及び分子化学に関する知識と技術を、多彩な実験とプロジェクト科目を通して学修させる。又、専門教育の補完、及び表現力養成の観点より、企業などの各分野より外部講師を適宜招聘し、情報化社会における倫理観の養成に繋げる。

(3) 卒業研究

4年生に「ゼミナール1・2」及び必修科目「卒業研究」を配置し、学系の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

2. 教育方法の考え方

(1) 体験的学習環境の整備

講義科目、実験科目及び卒業研究を通して、学生自身が主体的に知識や技術を身に付け、積極的に研究課題に取り組める体験的な学修環境を整備する。

(2) 分野横断的な学び

総合理工学科で開設している学系横断プログラムにより、環境化学を含めた分野横断的な学びの機会を提供する。これらを通して、科学的思考に基づき、論理的なコミュニケーションとプレゼンテーションができる能力を身に付けさせる。

(3) カリキュラムの体系性の検証

学系内で開設する教育課程が、各分野において基礎から専門へと体系化され、効率的な学修が受講生により遂行されるようにカリキュラムマップ等を通しての検証を行う。

3. 評価方法の考え方

授業の最終目標に向かうため、中間的到達目標を設定し、受講生の学ぶ意志を鼓舞するためにも適宜、到達度を明示する。客観的な成績評価を行うため、到達目標の達成度合いを総合的に判断する。

(3) 機械工学系

1. 教育課程編成の考え方

機械工学系では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)学科共通科目、(2)機械工学系科目、(3)卒業研究で編成する。更に機械工学系科目を①機械工学系基礎、②機械工学系応用に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 学科共通科目

学科共通科目は、「導入前科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工学実験」「キャリア教育科目」「教職基礎科目」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。

必修科目として、基礎科学科目の「基礎代数学1」「基礎解析学1」、プロジェクト科目の「プロジェクト1～6」及び理工学実験の「理工学実験実習1・2」を配置し、数学的思考力の基礎をはじめ、各学系における実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。

(2) 機械工学系科目

①機械工学系基礎

2年生に開講され、主に必修科目で構成する。

必修科目として配置する「材料力学1・2」「熱力学1・2」「機械力学1・2」「流体力学1・2」の4つの力学を柱として、4年生の「卒業研究」まで、ものづくりのための技術を養成する。又、理工学全般及び機械工学系での関心を喚起させる。

②機械工学系応用

3年生に開講される応用科目で構成する。

「機械工学系実験1・2」「機械設計製図1」を必修科目として配置し、技術の修得を通じた自立した社会人として、将来について考えさせ、社会において果たす役割を自覚させる。

(3) 卒業研究

4年生に必修科目「卒業研究」を配置し、学系の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

2. 教育方法の考え方

(1) プロジェクト科目における学び

「プロジェクト1(1年生)～6(3年生)」、各テーマについて実践的に修得することによって、より専門技術を具体的に学修させる。

(2) 学系横断プログラムによる学び

機械工学系では、「社会エネルギー工学プログラム」を設置して幅広い学問領域を学修させる。

(3) カリキュラムの体系性の検証

それぞれの教育課程が体系化されているか、又それぞれが教育目標の達成に有効であるかどうかをカリキュラムマップなどを活用して検証する。

3. 評価方法の考え方

(1) 授業の最終的及び中間的達成目標の明示

授業の最終的な達成目標に向かう途中に複数の中間的到達目標(以下「チェックポイント」と言う)を設定し、それを受講生に明示することで構成な成績評価の基準を示すことに努める。

(2) チェックポイントのフィードバック

チェックポイントの到達度を受講生にフィードバックすることによって、最終的な到達目標の達成を支援する。

(3) チェックポイントの測定による成績評価

チェックポイントの測定によって最終的な到達目標の達成度合いを総合的に判断し、より客観的な成績評価を行うことに努める。

(4) 電気電子工学系

1. 教育課程編成の考え方

電気電子工学系では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)学科共通科目、(2)電気電子工学系科目、(3)卒業研究で編成する。更に電気電子工学系科目を①電気電子工学系基礎、②電気電子工学系応用に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 学科共通科目

学科共通科目は、「導入前科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工学実験」「キャリア教育科目」「教職基礎科目」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。

必修科目として、基礎科学科目の「基礎代数学1」「基礎解析学1」、プロジェクト科目の「プロジェクト1～6」及び理工学実験の「理工学実験実習1・2」を配置し、数学的思考力の基礎をはじめ、各学系における実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。

(2) 電気電子工学系科目

①電気電子工学系基礎

1年生から2年生にかけて開講される基礎科目で構成する。

2年生に「電磁気学」「電気回路学」等を必修科目として配置し、実習・演習等を通じて、さまざまな内容に関心を持ち、絶えず自ら自己研鑽することで、自らの周囲、社会への貢献を意識させる。

②電気電子工学系応用

2年生から4年生にかけて開講される応用科目で構成する。

3年生に「電力電子実験」を必修科目として配置し、プロジェクト科目等の実習科目を通じて、自立した学習の態度を身に付け、更に自分の将来における社会の中の位置づけを意識させるようにする。

又、電気電子工学で修得する数学的思考力、物理学的思考力、システム工学的思考力を用いて、地域の課題に積極的に取り組み、課題に直面した際に、物事を論理的に分析し、迅速に問題解決に向けた判断を行わせるようにする。

(3) 卒業研究

4年生に「ゼミナール1・2」及び必修科目「卒業研究」を配置し、学系の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

2. 教育方法の考え方

(1) 自己実現力を持った技術者の育成

プロジェクト活動をはじめとした課外の活動を励行し、各学生の習熟度に応じて目標を与え、その目標への実現方法を具体化することで、自己実現を行う力を有する電気電子技術者を育成する。

(2) 複数技術分野に通用する技術者の育成

電気電子工学系の基本的な学修を踏まえ、一つの技術分野に特化することなく、エネルギー関連分野、電子デバイス分野、電気材料分野、ロボティクス分野等の電気電子工学が守備範囲とする幅広い分野に通暁した電気電子技術者を育成する。

(3) 資格取得の奨励

在学中に単位を取得することで資格の取得が有利になる認定制度(例：電気主任技術者)を活用して、学生への資格取得を奨励し、実務に強い電気電子技術者を育成する。

3. 評価方法の考え方

(1) 授業の最終的及び中間的達成目標の明示

授業の最終的な達成目標に向かう途中に複数の中間的到達目標(以下、チェックポイント)を設定し、それを受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示すことに努める。

(2) チェックポイントのフィードバック

チェックポイントの到達度を受講生にフィードバックすることによって、最終的な到達目標の達成を支援する。

(3) チェックポイントの測定による成績評価

チェックポイントの測定によって、最終的な到達目標の達成度合いを総合的に判断し、より客観的な成績評価を行うことに努める。

(5) 環境科学系

1. 教育課程編成の考え方

環境科学系では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)学科共通科目、(2)環境科学系科目、(3)卒業研究で編成する。更に環境科学系科目を①環境科学系基礎、②環境科系応用に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 学科共通科目

学科共通科目は、「導入前科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工学実験」「キャリア教育科目」「教職基礎科目」で構成し、理学と工学の基礎的な素養を修得させる。

必修科目として、基礎科学科目の「基礎代数学1」「基礎解析学1」、プロジェクト科目の「プロジェクト1～6」及び理工学実験の「理工学実験実習1・2」を配置し、数学的思考力の基礎をはじめ、各学系における実践的能力、実験を通じた専門分野の基礎を修得させる。

(2) 環境科学系科目

①環境科学系基礎

1年生から2年生にかけて開講され、主に必修科目で構成する。

21世紀の環境技術者は、環境に関連する調査・情報処理と環境保全技術の両分野に精通することが求められることを踏まえ、1年生に「環境基礎ゼミ」、2年生に「基礎環境化学」等の必修科目を配置し、各専門分野の内容を理解するとともに、取り組むべき課題を見出し、継続的に学修することの意味と将来の進路を意識付ける。

②環境科学系応用

2年生から4年生にかけて開講される応用科目で構成する。

3年生に「環境アセスメント」を必修科目として配置し、効果的な環境保全のための解決策の立て方を修得させる。

(3) 卒業研究

4年生に「ゼミナール1・2」及び必修科目「卒業研究」を配置し、学系の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

2. 教育方法の考え方

学系の教育は、到達目標の設定(Plan)、教育の手段・実施(Do)、目標達成の評価(Check)及び教育方法の改善(Act)からなるPDCAサイクルに基づき実施する。これらはJABEEの技術者教育認定基準(基準1～4)にも対応している。

(1) 到達目標の設定(Plan) (基準1 学習・教育到達目標の設定と公開)

学系が養成を目指す技術者像を定め、卒業時に学生が身に付けておくべき知識・能力として学習・教育到達目標「E-ECOSHIP」を設定し、公開する。

(2) 教育の手段・実施(Do) (基準2 教育手段)

学習・教育到達目標を達成できるよう教育課程(カリキュラム)を編成し、学生の主体的な学習と到達目標の達成状況の点検を促し、そのための適切な教育組織、学生受け入れ及び教育環境等を確保する。

(3) 目標達成の評価(Check) (基準3 学習・教育到達目標の達成)

学習・教育到達目標の達成を評価するため、科目ごとにシラバスに示した評価方法・基準に従って単位認定を行い、又達成度を総合的に評価する方法と基準を定め、卒業生全員が到達目標を達成していることを保証する。

(4) 教育方法の改善(Act) (基準4 教育改善)

学習・教育到達目標の達成度の評価結果に基づき、教育活動を点検・改善する仕組みを作り、又社会の要求や学生の要望にも配慮しつつ、教育活動の継続的な改善を行う。

3. 評価方法の考え方

	<p>学習・教育到達目標「E-ECOSHIP」を達成するため、科目ごとにシラバスに具体的な到達目標との関係、評価方法・基準を定め、更に個々の科目で修得した知識・能力により8つの学習・教育到達目標に対するそれぞれの達成度を総合的に評価する「学生別達成度評価システム」を構築する。このシステムを使って、学生は学期又は学年ごとにそれぞれの中間的な達成度を把握し、自身の弱点や今後取り組むべき到達目標を知り、効率的な学習計画を立てることができる。</p>
2. 人文学部	<p>人文学部の教育課程は、国際コミュニケーション学科、人間社会学科、日本文化学科及び福祉実践学科の各学科科目と学部共通科目で構成する。学科科目は、各学科の人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために必要な授業科目をそれぞれ体系的に編成する。学部共通科目は、人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。</p>
(1) 国際コミュニケーション学科	<p>1. 教育課程編成の考え方 国際コミュニケーション学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を(1)学科科目、(2)学部共通科目で編成する。更に学科科目を①必修科目、②選択必修科目、③選択科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>(1) 学科科目</p> <p>①必修科目 1年生から4年生にかけて開講される下記科目で構成する。 1年生に「基礎研究」、2年生に「専門基礎研究A・B」、3年生から4年生にかけて「専門研究1～4」を配置し、多様な人々と円滑にコミュニケーションする方法、又、その為に必要な幅広い知見を身に付けさせる。 又、4年生に「卒業研究」を配置し、個々の文献読解や論文課題を通じて文章によっても自身の意見、考えを表現し、幅広い視点に立って思考・判断、分析する力を養う。</p> <p>②選択必修科目 1年生から2年生にかけて「コミュニケーション英語／中国語1A～2F」を配置し、1言語を選択履修させる。個別学修及び他者との実践的なコミュニケーション活動、協働的タスク・プロジェクトを通じて、日本語そして英語・中国語を社会で運用する力を養う。</p> <p>③選択科目 1年生から3年生にかけて開講される科目で構成する。 「フィールドワーク」、「サマースクール」、「留学」等の科目を配置し、実践的な学び・活動を通じて、多様な文化、習慣、考え方に触れる機会を多く作り、自ら課題を発見し、解決する力を養う。又、グループワーク及び個々の学修を通じて、他者と円滑にコミュニケーションしながら組織で問題解決していく態度・方法を養う。</p> <p>(2) 学部共通科目 人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。</p> <p>2. 教育方法の考え方</p> <p>(1) グループ内、グループ間の協働、話し合い、発表を主体とした教育を行う。 (2) グループ活動での学びや気づきが多い体験を通して、自律的な学修を促進する。 (3) タスク・プロジェクト遂行型の活動を積極的に行う。</p> <p>3. 評価方法の考え方</p> <p>(1) 課題に対する日々の取り組みを重視して成績評価を行う。 (2) 最終テストのみならず、課題、各授業活動への参加姿勢・態度等を総合的に加味して成績評価を行う。 (3) タスク・プロジェクトベースの科目においては、教員のみならず、複数の人々による評価・意見を総合的に考慮して成績評価を行うこともある。</p>
(2) 人間社会学科	<p>1. 教育課程編成の考え方 人間社会学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するため、授業科目を(1)学科科目、(2)学部共通科目で編成する。更に学科科目を①基礎科目、②専門科目、③応用科目、④社会調査関連科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>(1) 学科科目</p> <p>①基礎科目 1年生から4年生にかけて開講され、主に必修科目で構成する。 1年生に「レポート作成とプレゼンテーション」「社会学への招待A・B」等の科目を必修科目として配置し、自立した学習の態度や基礎的な学習スキルを育成するとともに、社会的な考え方を基礎づけている理論・学説史的背景についての学びを通して、2年生以降に学修する専門分野への興味や関心を喚起する。 続いて、2年生に「社会学原論A・B」を必修科目として配置し、社会学理論の基礎を修得させる。 又、2年生から3年生にかけてゼミナール形式の「社会学研究1A・1B・2A・2B」を必修科目として配置し、発表や他者との議論を通じて、他者へ自身の考えを表現する力とコミュニケーション力を養成する。 最後に、4年生に「卒業研究」を必修科目として配置し、学科の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業論文を完成させる。</p> <p>②専門科目 多岐にわたる社会学の専門分野のコアとなる科目群である。全て選択科目で構成し、学生の興味や関心に応じた履修を通して、社会的分析の基礎を修得させる。</p> <p>③応用科目 社会学の方法論を応用して多様な社会事象の分析を行う科目群である。全て選択科目で構成し、学生の興味や関心に応じた履修を通して、社会学理論の活用法を修得させる。</p> <p>④社会調査関連科目 社会調査士資格取得に関する科目で構成する。必修科目の「社会調査法A・B」で社会調査の基礎を学び、選択科目として配置する統計関連科目の履修を通して、統計分析の手法を修得させる。更に選択科目の「社会調査実習」において、学修した知識や方法論を用いた社会調査を実践させ、社会調査士に求められる専門的知識とともに、社会に貢献できる能力を養成する。</p> <p>(2) 学部共通科目 人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。</p> <p>2. 教育方法の考え方</p> <p>(1) 実践躬行(アクティブ・ラーニング等)</p>

社会調査実習及び各学年のゼミを中心とする科目群において、アクティブ・ラーニング等を通して、実践的かつ能動的な知識や技術を身に付けながら、学生自身が課題を発見し、その解答を探究する体験的な学修環境を整える。

(2) 分野横断的な学び

各自の希望する進路に即したコースの科目を中心に履修させると同時に、社会学におけるさまざまな研究分野についても広く学ぶ機会を提供することにより、学生の視野を広げる。

(3) 地域社会との連携

地域社会の人々と連携し、協働することを通して、実践的な学修を促進する。

(4) 教育目標の達成度の検証による授業改善

授業の教育目標の達成度を科目毎に適切な方法で把握し、不断の授業改善に努める。

3. 評価方法の考え方

授業科目の最終的な到達目標の達成を支援するため、中間的な到達目標及び公正な成績評価基準を明示した上で、適切なタイミングで受講生にフィードバックを行うとともに、科目毎に適切な方法を用いて到達状況を把握し、評価を行う。

(3) 日本文化学科

1. 教育課程編成の考え方

日本文化学科の授業科目は(1)学科科目、(2)学部共通科目で構成される。学科科目は①基本科目群、②伝統文化科目群、③現代文化科目群に分けられ、それぞれの科目群を履修し、体系的・総合的に日本文化を学ぶことにより、ディプロマ・ポリシーを達成し人材を養成する。

(1) 学科科目

①基本科目群

基本科目群の多くは必修科目であり、1年生から4年生にかけて履修する。

1年生で「日本語レベルアップ1・2」、「古文入門」「漢文入門」で基本的な日本語の技能を高め、「日本文化体験」等で日本文化に関する基本的知識を獲得する。

2年生で「古典文化基礎演習1・2」等、3年生で「日本文化演習1・2」の演習科目を必修科目として履修し、日本文化の専門知識を得ると共に独自の研究を行う技能を養うことにより、4年生で履修する「卒研演習」につなげ、卒業論文を執筆する能力を獲得する。

日本語運用能力を磨いてコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を高め、日本文化を深く理解し国内外の多方面に発信できる人材を養成する。

②伝統文化科目群

伝統文化科目群は歴史、古典文学、伝統芸能に関する選択科目から構成される。1年生配当科目として「歴史入門A・B」等の入門的な科目、2年生・3年生配当科目として「古文書学」「江戸文化論」等のより専門的な知識を得るための科目がある。古典文学や歴史史料を読解する技能と研究能力を養う。

③現代文化科目群

現代文化科目群は近現代日本文学、日本語、視覚文化に関する選択科目から構成される。1年生配当科目として「日本文学概論」等の入門的な科目、2年生・3年生配当科目として「近代文学」「映画芸術論」等のより専門的な知識を得るための科目がある。近現代の文化と文学を研究するための知識と技能を養う。

(2) 学部共通科目

人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

2. 教育方法の考え方

(1) 実践躬行(アクティブ・ラーニングなど)

日本文化の体験や古典・近現代文学の精読を通じて学生が実践的に日本文化を学び、自主的に研究課題を発見し研究できる能力を養うための学修環境を整える。

(2) 分野横断的な学び

学部共通科目や全学共通科目を通じて、日本文化以外の様々な専門領域の学修を行うことにより、学際的な視点を養う機会を提供する。

(3) 地域社会との連携

「日本文化研究」などの科目や演習科目においてフィールドワークを行い、地域社会との連携を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学修を促進する。

(4) 教育目標の達成度の検証による授業改善

授業の最終的な教育目標を達成するための要件をシラバスに示し、各回の授業内容がそれらの要件を満たすかどうかを授業担当者が検証することにより、不断の授業改善に努める。

(5) カリキュラムの体系性の検証

学科の教育課程が体系化されているか、又それが教育目標の達成に有効であるかどうかを、カリキュラムマップ等を活用して検証する。

3. 評価方法の考え方

(1) 授業の最終的及び中間的到達目標の明示

達成度が評価される科目においては、授業の到達目標までの行程に複数の中間的到達目標(以下「チェックポイント」と言う)を設定し、それを受講生に明示することで公正な成績評価の基準を示す。

(2) チェックポイントのフィードバック

本評価方法が適合する科目では、チェックポイントの到達度を受講生にフィードバックすることによって、到達目標の達成をより具体的に支援する。

(3) チェックポイントの測定による成績評価

達成度が評価される科目では、チェックポイントの測定によって到達目標の達成度合を判断し、より客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。それ以外の科目でも、各授業担当者が客観的かつ公正な成績評価を行うことに努める。

(4) 福祉実践学科

1. 教育課程編成の考え方

福祉実践学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を(1)学科科目、(2)学部共通科目で編成する。更に学科科目を①必修科目、②基本科目、③社会福祉専門科目、④精神保健福祉専門科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 学科科目

①必修科目

1年生から4年生にかけて開講される必修科目で構成する。

1年生に「社会福祉入門」「地域ニーズ開発」、2年生に「相談援助演習1・2」、3年生に「専門演習(基礎/応用)」等を配置し、自立した学修の態度や方法を学ぶと共に、自らのうちに社会の様々な分野への興味や関心を喚起する。

更に4年生に「卒業研究演習1・2」「卒業研究」を配置し、学科の専門性を深めさせるとともに、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

②基本科目

1年生から4年生にかけて開講される選択科目で構成する。

1年生に「現代社会と福祉2」等の実践的かつ学際的な科目を配置することで、積極的に福祉的な課題を発見し、それを解決する態度や方法について学ぶ。

2年生に「多摩地域福祉論」等の地域に立脚した科目を配置し、地域と世界のつながりを理解し、物事をミクロからマクロまで含む多面的な視野で把握する判断力を養う。又、「実践手話」等の科目も配置し、日本語並びに外国語、手話などの多様な言語表現、更にはノンバーバルなものも含む表現力とコミュニケーション力を高めることで、国内外の社会において自らの考えを発信する力を養う。

更に、3年生に「福祉インターンシップ1・2」等のキャリア科目や実習科目を配置し、全学共通キャリア形成科目と連動させることで、自立した福祉職業人・福祉社会人として将来について考え、社会において自らが果たすべき役割を意識化する。

③社会福祉専門科目

2年生から4年生にかけて開講され、社会福祉士資格取得に必要な科目で構成する。

2年生に「相談援助実習指導1」、3年生に「相談援助実習」、4年生に「ソーシャルワーク実習」等の選択科目を配置し、思想・理念・価値、特別な技術・技能の修得によって、福祉職業人・福祉社会人として社会に貢献する能力を身に付けさせる。

④精神保健福祉専門科目

2年生から4年生にかけて開講され、精神保健福祉士資格取得に必要な科目で構成する。

2年生に「精神保健福祉論2・3」、3年生に「精神保健福祉援助演習1」、4年生に「精神保健福祉援助演習2・3」等の選択科目を配置し、思想・理念・価値、特別な技術・技能の修得によって、福祉職業人・福祉社会人として社会に貢献する能力を身に付けさせる。

(2)学部共通科目

人文学部の各学科から提供される科目群である。他学科科目の履修をすることにより、幅広い知識・能力を涵養し、自学科の学修に新たな視点と広がりを与えることを目的とする。

2. 教育方法の考え方

(1) 自発的な学修態度を促すために、幅広く知識・技術の修得・体験の機会を提供し、知識と実践の結びつきの強化を図る。

(2) 社会において福祉の視点を持ち、社会の事象に着目し、自ら行動を起こせる福祉職業人・福祉社会人を養成するために、学生の希望する卒業後の進路に基づいて、選択科目である基本科目、社会福祉専門科目、精神保健福祉専門科目は、履修指導を徹底し、体系的な履修を促す。

3. 評価方法の考え方

(1) 知識や技術の理解や修得に係る科目については、各科目の関連するディプロマ・ポリシーの到達目標に基づき評価を行う。

(2) 体験的・実践的な科目については、レポートや面接等により学生それぞれの理解の深まりについて把握し、評価会議等を行い適切かつ公正に評価を行う。

3. 経済学部

1. 教育課程編成の考え方

経済学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1)必修科目、(2)選択必修科目、(3)選択科目、(4)キャリア選択科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 必修科目

初年次から4年次にかけて開講される必修科目で構成する。

初年次に「基礎演習A・B」等を配置し、経済社会を分析するために必要となる論理的思考力の基礎を養成する。

又、2年次に「地域参画ワークショップ」3年次にゼミナール科目「専門演習1A/1B」を配置し、経済社会を分析するために必要な思考力や表現力、コミュニケーション力、及び経済社会の諸問題を多角的な視野から能動的に発見して、それらを解決する能力と態度を養成する。

更に、4年次にゼミナール科目「専門演習2A/2B」「卒業研究」を配置し、4年間の学修の集大成として卒業研究を完成させる。

(2) 選択必修科目

2年次に開講される「ミクロ経済学1・2」「マクロ経済学1・2」のいずれかを選択必修科目として配置し、経済社会の諸問題に対するグローバルな視点での洞察力や分析力を養成する。

(3) 選択科目

初年次から3年次にかけて開講される選択科目で構成する。

初年次に「法律学概論1・2」2年次に「工業簿記1・2」3年次に「マーケティング1・2」等の科目を配置し、経済学に加えて法学・商学・会計学の知識とスキルを用いて、経済社会の諸問題を発見し、それらを解決する能力を養成する。

(4) キャリア選択科目

初年時から3年次にかけて開講される選択科目で構成する。

初年次に「キャリアスキル特講1・2」等を配置し、経済社会に貢献する専門的な知識を持つ社会人を養成する。

又、2年次から3年次にかけて「キャリアスキル1～6」等を配置し、社会人として経済社会で果たす役割を自覚させ、それを実現するための必要な能力を養成する。

2. 教育方法の考え方

(1) 実践躬行

経済社会の諸問題を多角的な視野から能動的に発見して、それらの解決方法を探求する学修機会を提供する。

(2) 社会科学分野の横断的な学び

経済学に加えて法学・商学・会計学など、社会科学分野における幅広い視点に基づいた問題解決能力を養うための学修機会を提供する。

(3) 地域社会との連携

地域の経済社会で活動する人々との連携を通じて、専門教育での学びと経済社会とのつながりを理解できる実践的な学修機会を提供する。

(4) 最終到達目標の構成要件の検証による授業改善

授業が科目の最終到達目標の構成要件を十分満たす内容になっているかを教授者自らが検証しながら授業改善に努める。

(5) カリキュラムの体系性の検証

	<p>授業の体系をカリキュラムマップ等を活用して提示する。</p> <p>3. 評価方法の考え方</p> <p>(1) 最終到達目標の構成要件の明示</p> <p>科目の教育目標に適合した評価方法を採用するために、科目ごとに最終到達目標の構成要件をシラバスに明示する。</p> <p>(2) 最終到達目標の構成要件を基準とした成績評価</p> <p>成績評価は科目の最終到達目標の構成要件について行い、公正な成績評価の基準を示すことに努める。</p>
<p>4. 情報学部</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方</p> <p>情報学がメタサイエンスであるという観点から、特に幅広い応用・利活用分野に対応するため、広範囲に渡る情報学のうち核となる知識・技能の獲得ができるよう、学科科目を基礎科目、基幹科目、発展科目、先進・先端科目、キャリア形成・技能養成科目、研究実践科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。</p> <p>(1) 汎用的技能の修得</p> <p>学部の初年次教育として情報学への興味関心を促す科目を開設し、自律的学修態度を涵養する。更に実験科目やプロジェクト実践科目を適切な学年に配置し、コミュニケーション力や多様な人々との協働力を身に付けられるようにする。</p> <p>(2) 社会や諸分野への応用・利活用を目指した学び</p> <p>社会的価値の創造を念頭に置いた情報通信技術の応用・利活用を知るために、幅広い分野に興味関心を持つよう意図した科目を1年生から開設し、又、先端的な技術を知るための専門科目を2年生以降に配置する。</p> <p>(3) プログラミング能力を基盤とした問題解決</p> <p>問題解決のための基盤としてのプログラミング能力の育成を目指し、1年生からプログラミングの基礎・演習科目を配置し、2年生以降の実験科目やプロジェクト実践科目において身に付けたプログラミング能力を活用する実習を実施する。</p> <p>又、将来の活用先を見据え、適切なプログラミング言語・手法を選択して修得できるように科目やクラスを設置する。</p> <p>(4) 数理科学・統計学に裏打ちされた情報学の体系的知識の獲得</p> <p>情報学は数学及び統計学と特に深く関連していることから、これらの基礎を修得できるように、体系的に数学・統計学関連科目を設置する。</p> <p>(5) 「情報の扱い」に対する能力の育成</p> <p>飛躍的に増加するデータを情報として適切に活用し社会に価値を創造できるようにするため、データの収集、加工、蓄積、分析、変換、活用、表現、伝達といった技術を修得し、いわゆる「情報の扱い」の基礎から応用までを学べるよう専門科目を体系的に整備する。</p> <p>(6) 情報の原理を理解し、情報を扱う機械や機構を設計・実現する技術の修得</p> <p>情報学の基礎として情報の原理を理解した上で、コンピュータを始めとした情報を扱う機械・機器やシステムの設計ができ、それらを実現・構築する技術を修得できるよう、体系性・順序性を考えて必要な科目を配置する。</p> <p>(7) 高度化された情報通信社会における先導者としての素養の獲得</p> <p>高度化された情報通信社会において先導者としての役割が果たせるようになるために、AIやIoT、センシングといった理工学分野を中心とした技術の修得ができるよう、さらに倫理観を持った上で、社会や経済活動、人間活動を取り巻く環境についての理解が深められるよう、学科科目を設置する。</p> <p>2. 教育方法の考え方</p> <p>(1) 主体的な学び</p> <p>主体的・能動的な学びを自立して行えるよう、アクティブラーニングの手法を専門科目でも取り入れる。</p> <p>(2) プログラミングによる問題解決</p> <p>全ての学生にプログラミングの技能を身に付けさせるために、修得レベルに応じた学修ができるよう能力別クラスを設定する。問題解決を実践的に学べるよう、プロジェクト学習を取り入れる。</p> <p>(3) 実験・演習による体験的な学び</p> <p>実験科目や演習科目における実体験を通じ、知識や技能の理解・定着を深めさせる。更に、実験や演習で実施する問題解決の過程や結果を説明する機会や場を設けることにより、理解度を確認するとともに、その深化を促進させる。</p> <p>(4) 協働的な学習や体験</p> <p>コミュニケーション力をはじめとする情報通信技術の関わる業界において必要とされる汎用的能力の基礎を身に付けるため、適宜グループワークを実施する。グループワークでの活動を通じ、多様な特性を持つ人々との協働や、その中での様々な役割を経験させる。</p> <p>(5) 履修モデルの提示と指導</p> <p>人材に対する産業界のニーズに応え、又学生の目指す自己実現の在り方にも配慮し、4年間に渡って効果的な履修ができるよう履修モデルを提示する。その上で、学生個々の特性を評価し、適切な履修モデルの選択ができるよう個別指導を行う。又、関連する全学共通教育科目の履修を促す。</p> <p>3. 評価方法の考え方</p> <p>(1) 到達目標の明示</p> <p>全ての科目で、学修体系や履修モデルにおける位置付けを意識した到達目標を明示し、自己評価も客観的にできるよう到達度の基準を示す。</p> <p>(2) 主体的な学びの成果を評価するためのルーブリック等の活用</p> <p>主体的な学びの成果を公平に評価できるよう、特に定性的な評価が要求される課題・科目については、ルーブリック等を積極的に活用する。</p> <p>(3) レポートによる評価</p> <p>問題を発見した上でモデル化し、適切なアルゴリズムや解法を選択できているかを確認するため、実験科目やプロジェクト実践科目においてレポートによる評価を実施する。</p> <p>(4) 卒業研究の評価</p> <p>卒業研究の実施及び卒業論文の作成を通じて、(a)体系的な知識・技能の習得ができたこと、及び(b)その知識・技能を生かして問題発見・解決ができること、を評価・確認する。又、4年間の学修の成果を総合的に計測するため、複数教員による客観的総括評価をルーブリック等を活用して行う。</p>
<p>5. 教育学部</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方</p> <p>教育学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを踏まえ、「小学校教員コース」「教科専門コース(国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・英語)」「特別支援教員コース」「子ども臨床コース」の11コースにおいて、教員免許及び保育士資格を取得し、豊かな教養と専門的な知識や実践的指導力を備え教育者・保育者等として活躍できる人間を育成するための教育課程を体系的に編成する。教育課程は、(1)学科科目、(2)学部共通科目で構成し、更に学科科目は①必修科目、②選択科目に区分する。</p>

(1) 学科科目

①必修科目

1・2年生に、教育者・保育者に向けて子どもや教育に関する理論や制度等を学ぶ基礎的な科目を配置する。又、全学年を通して〈手塩にかける教育〉を実現する少人数クラスとして「教育学基礎演習」(1・2年生)、「教育実践ゼミ」(3・4年生)を配置し、討論や考察、追究等を通して教育に対する深い理解や実践力を身に付けさせる。4年間の学びの集大成として「卒業研究」を完成させる。

②選択科目

幅広い知識や実践的指導力を備えた教育者・保育者を育成できるよう、幼稚園、小学校、中・高等学校の各教科、特別支援学校の一種免許状、保育士資格の取得に必要な教育の基礎的理解に関する科目をはじめ、教科及び教科の指導法に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、領域及び保育内容の指導法に関する科目等を適切かつ体系的に配置する。又、2年生に「教育インターンシップ」を配置し、各科目における理論の学修と学校・保育現場における実践を往還させながら教育者・保育者としての視点や実践力を体験的に養う。

(2) 学部共通科目

教育者・保育者としての必要な知識や実践的指導力とともに、高次の教養を身に付けさせるため、思想、言語、歴史、文化、社会、情報等に関する科目を選択科目として配置する。

2. 教育方法の考え方

学生が教育者・保育者となるために必要な資質・能力を身に付け高めることができるよう、科目の特質を踏まえ、次のような指導方法の工夫に取り組む。

(1) 学生の主体的・対話的・深い学びが成り立つよう、将来の進路との関わりを視野に置きつつ、学修への見通しをもたせたり振り返ったりすること、学修の対象と双方向に関わり追究を深めること、知識を関連付けてより本質的な理解に達すること、問題を発見し解決に取り組むことなどを重視する。

(2) 理論と実践との往還、大学での学修と現実社会との相互のつながりを重視する。

(3) 学生の学修の状況や成績評価を踏まえて、指導の計画や方法の工夫改善に努める。

3. 評価方法の考え方

(1) シラバスにおいて各科目の教育目標を明示するとともに、学生の主体的、計画的な学修に資するよう到達目標／行動目標を併せて示す。

(2) 各科目の教育目標に準拠した成績評価を行う。その際、科目の特質に即して成績評価の規準を明確にするよう努める。

6. 経営学部

1. 教育課程編成の考え方

経営学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するため、学科科目を(1)基幹科目、(2)学科専門分野科目、(3)キャリア開発関連科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。

(1) 基幹科目

1年生から4年生にかけて開講される科目で構成する。1年生に「経営基礎1・2」、2年生に「経営基礎3・4」を中心に必修科目として配置し、経営学の基礎を修得させる。又、3年生に「ゼミナール1・2」、4年生に「ゼミナール3・4」「卒業研究」を必修科目として配置し、専門性を深めさせるとともに、4年間の学びの集大成として卒業研究を完成させる。

(2) 学科専門分野科目

経営学部の基礎理論を基に、実践的な体験学習の機会を多く設け、①多摩ブランド創生、②観光・ブライダル、③事業承継・起業、④金融・会計プロフェッション、⑤高度実務人材育成の各コースで、経営管理、マーケティング、会計学の各分野を横断的に学修させる。

①多摩ブランド創生コース

「流通論基礎・応用」「地域ブランド論」「消費者行動論」等のマーケティング分野の科目の履修を中心に、多摩地域に立脚した学修を通して、多摩地域と世界のつながりを理解し、物事をグローバルに把握する判断力を育成する。

②観光・ブライダルコース

「観光マーケティング論」「ブライダル・マーケティング論」「ホスピタリティ・マネジメント論」等のマーケティング分野の科目の履修を中心に、理論と実務の両面から、サービス業で活躍するための知識とスキルを修得させる。

③事業承継・起業コース

「ファミリービジネス論」「イノベーション実践論」「起業マネジメント論」等の経営管理分野の科目の履修を中心に、起業教育を軸にした実践的かつ学際的な学びを通して、多角的な視野から積極的に課題を発見し、解決する態度や方法を修得させる。

④金融・会計プロフェッションコース

「コンピュータ会計」「原価計算論」「財務諸表分析」等の会計学分野の科目の履修を中心に、会計や財務の知識を修得させ、金融機関や会計系専門職において求められる資質を涵養する。

⑤高度実務人材育成コース

「企業論」「経営組織論」「経営戦略論応用」「国際経営論」等の経営管理分野の科目の履修を中心に、経営に関する公的な資格の取得や特別な技術・技能の修得によって、専門的な職業人として社会に貢献する能力を育成する。

(3) キャリア開発関連科目

2年生から3年生にかけて開講される選択科目で構成する。2年生に「キャリア開発1・2」、3年生に「キャリア開発3・4」を配置し、又、全学共通キャリア形成科目と相互に補完させて、社会的に自立した自己の将来像について考える機会を提供し、社会において果たすべき役割を自覚させる。

2. 教育方法の考え方

(1) 実践躬行(アクティブ・ラーニング等)

アクティブ・ラーニング等を用いた科目を通じて、実践的かつ能動的な知識や技術を身に付けながら、学生自身が課題を発見し、解答を探究する体験的な学修環境を整える。それ以外の科目でも可能な限り学修者中心の学びの機会を提供することに努める。

(2) 地域社会との連携

地域社会の様々な分野の人々との連携を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学修を促進する。

(3) コース別授業カリキュラムの展開

卒業後の進路意向に基づき、入学後に、①多摩ブランド創生、②観光・ブライダル、③事業承継・起業、④金融・会計プロフェッション、⑤高度実務人材育成の5コースから1つを選択させ、体系的に履修させる。

3. 評価方法の考え方

(1) 到達目標と評価方法の明示

	<p>コースごとに履修モデルを提示し、科目ごとに到達目標と評価方法を明示する。これにより、自己評価も客観的にできるよう基準を示す。</p> <p>(2) 卒業研究の評価 「卒業研究ガイドライン」に基づく卒業研究の作成を通じて、(a) 経営に関する専門知識と技能を修得しているか、(b) 企業経営に関する問題発見と解決能力を身に付けているか、という視点を中心に総合的に評価を行う。</p>
<p>7. デザイン学部</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方 デザイン学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1) 企画表現演習科目、(2) 理論科目、(3) 技術実習科目、(4) デザイン分野演習科目、(5) キャリア科目、(6) デザインビジネス科目、(7) 卒業研究、に区分し、体系的に教育課程を編成する。 全ての学科科目は、ナンバリングを付したカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーが示す通り、それぞれの役割を持つと同時に、学科のディプロマ・ポリシーと人材養成の目的を確実に達成するために、樹状構造を成しながら、互いに連動・連携したかたちでカリキュラムの全体を構成する。</p> <p>(1) 企画表現演習科目 カリキュラムの中核となる一連の必修科目「企画表現1～6」を配置し、課題や問題を自ら発見・解決する態度や方法について実践的に学ばせ、実社会で必要とされる企画力・表現力を段階的に養成する。</p> <p>(2) 理論科目 1・2年生を中心とする早い段階で、デザインをする上で前提となる知識と教養を修得させ、専門教育に臨むための素養を整える。</p> <p>(3) 技術実習科目 1年生を中心とする早い段階で、デザインをする上で前提となる表現技術、加工技術を修得させ、資料や具体を美的に構成するための基礎を身に付けさせる。</p> <p>(4) デザイン分野演習科目 2・3年生を中心とする中期の段階で、様々なデザイン分野の専門的な知識・技術・方法について実践的・横断的に学習させる。</p> <p>(5) キャリア科目 様々なデザイン分野で活躍する社会人や企業の現場に触れることで、社会に対しての幅広い関心を高め、社会貢献につながる自らの目標を意識化させる。</p> <p>(6) デザインビジネス科目 デザインと実際のビジネス、法律等との結びつきを学び、デザインの活動に必要な幅広い知識と教養を身に付けさせる。</p> <p>(7) 卒業研究 身に付けてきた企画力・表現力を総合的に発揮し、身の回りの生活や地域・社会の抱える課題や問題を調査・分析した上で、それらを解決する具体的な企画提案にまとめ発表させる。</p> <p>2. 教育方法の考え方 デザイン学科では、学生の学修を実践的かつ能動的なものにするために、(1) モノづくりに偏らないデザイン教育、(2) 科目間のつながりと流れを意識させる体系性をもった教育、(3) 実践躬行する機会の提供、(4) 地域社会との連携、(5) 検証による授業改善、の考え方に基づき教育方法を構築する。</p> <p>(1) モノづくりに偏らないデザイン教育 デザインを「企画力(分析力・発想力・統合力)」と「表現力(美的構成力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力)」との総合的活動として捉え、狭い専門分野のモノづくりに偏らない、実社会で必要な力を段階的に身に付けさせる。</p> <p>(2) 科目間のつながりと流れを意識させる体系性をもった教育 科目間の連動と連携を重視し、カリキュラム全体がディプロマ・ポリシーの達成に向けた大きな流れであることを常に意識させるような教育方法によって、デザインを体系的かつ総合的に学修させる。</p> <p>(3) 実践躬行する機会の提供 基幹科目を中心に、アクティブ・ラーニング等の実践的かつ能動的な学修方法によって、学生が自ら課題や問題を発見し、それを解決する方策を探求する機会を提供する。そうしたプロセスを様々なテーマのもとで繰り返し経験させる。</p> <p>(4) 地域社会との連携 地域社会と直接関わる産学公連携によるプロジェクト等を通じて、学内だけでは学ぶことのできない実践的な学習を促進すると共に、実社会への興味や関心を高め、将来社会人として自らが果たすべき役割を明確にさせる。</p> <p>(5) 検証による授業改善 授業の教育目標の達成状況を、複数の評価基軸と中間的到達目標に沿って検証し、改善に努める。中でも1年生の必修科目等については、確実に目標を達成させる。</p> <p>3. 評価方法の考え方 デザイン学科では、公正な評価を伴う学修を促進するために、(1) 授業の目的と到達目標の明示、(2) 評価基軸と点数配分の設定、の考え方に基づき学修の評価方法を設定する。</p> <p>(1) 授業の目的と到達目標の明示 授業の目的を明確に定めた上で、その授業の最終的な到達目標を設定し、それらを学生に明示する。</p> <p>(2) 評価基軸と点数配分の設定 到達目標に応じた評価基軸と点数配分を定め、受講態度等も含めて総合的かつ客観的に評価する。</p>
<p>8. 心理学部</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方 心理学部では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを達成するために、学科科目を(1) 基礎科目、(2) 基幹科目、(3) 発展科目、(4) 臨床実践科目、(5) キャリア形成科目、(6) 研究実践科目に区分し、体系的に教育課程を編成する。 このカリキュラムは、「心理学の専門的な仕事をするために必要な基礎学力と技能とを修得している」ことを保証する公益社団法人日本心理学会の「認定心理士」資格、並びに、その上位資格である「認定心理士(心理調査)」資格に準拠している。 又、「公認心理師資格の取得のために学部で修得しておくべき科目」をも網羅しているため、卒業生は大学院に進学するなどして公認心理師の資格取得を目指すことができる。</p> <p>(1) 基礎科目 1年生から2年生にかけて開講される必修科目で構成する。</p>

1年生に「心理学概論A」「心理学概論B」「心理学研究法」、及び少人数制で実施される「心理学統計法1」「心理学統計法2」、2年生に少人数制で実施される「心理学実験」「心理的アセスメント」等を配置し、心理学の全体像を理解させるとともに、3年生以降の専門的な授業を理解するために必要な基礎知識を修得させる。

(2) 基幹科目
1年生から2年生にかけて開講される、心理学の幅広い分野の選択科目で構成し、学生各自の卒業後の進路計画に基づき、20単位以上を選択履修させる。

(3) 発展科目
専門科目を①人間科学、②産業・社会、③カウンセリング、④発達支援の4分野に区分して3年生に配置し、学生各自の卒業後の進路計画に基づき、科目を選択履修させる。

(4) 臨床実践科目
全て3年生に開講される科目で構成し、「心理演習」「心理実習」等の選択科目を配置することで、実際の臨床の場における実践能力を修得させる。

(5) キャリア形成科目
心理学部での学びが社会的自立に円滑に結びつくように、3年生に「心理学で拓くキャリア」を選択科目として配置する。

(6) 研究実践科目
3年生から4年生にかけて「専門演習1A～2B」「卒業研究」を必修科目として配置し、専門的学修の最終成果である、科学的・実証的な卒業研究を完成させる。

2. 教育方法の考え方
心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの下で学生が修得すべき内容を教育するために、

(1) 「知識・技術・技能の修得」、「学生の気づきや成長の援助」等、個別の科目の教育目標と学生が達成すべき具体的な目標とをシラバスに掲げる。

(2) それらの目標を達成するのに相応しい教育方法（実習・演習・講義など）を採用して計画的に授業を実施する。

(3) 各回の授業における学生の理解度やリアクション・ペーパーの記載内容等を参照しつつ授業のあり方を随時改善する。

(4) 学生による授業評価のうち心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえた合理的な指摘を参照して当該科目における教育方法を再検討する。

3. 評価方法の考え方
(1) 心理学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく個々の科目の教育目標に適合した評価方法を採用する。そのため、科目ごとにその到達目標をその構成要件とともにシラバスに明示し、成績評価はその目標及び構成要件に基づいて行う。例えば、知識・技術・技能の修得を目標とする科目では、それらの定着を問う試験を実施し、学生の気づきや成長を促す科目では、それらを捉えるためのレポート提出

(2) 各科目の教育目標に照らして適切な内容の評価方法、適切な回数の評価機会を設定し、評価方法をシラバスに明示して、学生に当該科目の学修上の重点を周知する。

(3) 上記2要件を充たした上で、①各回の授業内容について学生に論述を求める等、授業ごとの達成を成績に反映させること、②授業の進行に伴って、確認テストを行い自己採点させる等、学生が自らの学修の深度を適宜確認できる機会を提供することを通じて、学生の日々の学びの状況を捉えたきめ細かい成績評価を目指す。

9. 建築学部

1. 教育課程編成の考え方
建築学科では、建築学に関する専門知識及び実践的な技術、又、建築デザイン分野、住宅デザイン分野及び建築都市エンジニアリング分野に関する発展的知識の修得を目的に、学科科目を(1)基礎科目、(2)専門基幹科目、(3)専門発展科目に区分する。

(1) 基礎科目
建築学に関する導入科目及び建築学の学修上基礎となる数学・物理関連科目を配置する。

(2) 専門基幹科目
建築学の専門知識及び技術の修得を目的に、その基幹領域となる「設計・計画」「構造」「環境・設備」「材料・構法・生産」ごと、体系的に授業科目を配置する。又、「設計製図」関連科目は、1年次から必修科目として段階的に積み上げ、「卒業研究」へと発展的学修が可能となるように配置する。

(3) 専門発展科目
学生が目的に応じて学修することを可能にするため、「建築デザイン」「住宅デザイン」「建築都市エンジニアリング」の区分を設け、各分野の専門性を深める授業科目を配置する。又、建築に携わる職業人として期待される進路やその実現のためのキャリアについて学ぶ「キャリア支援科目」、建築学における学士課程教育の集大成となる「卒業研究」の区分を設け、適切に授業科目を配置する。

2. 教育方法の考え方
(1) 建築学部建築学科では、講義科目、演習科目及び実験・実習科目を適切に配置する。講義科目は、建築学における広範な専門知識の獲得を目的とする。演習科目は、講義科目で得た専門知識の深化と定着を目的とする。実験・実習科目は、本学が保有する施設・設備の利用を通して体験型の授業を行い、建築学における実践的な技術力の獲得を目的とする。

(2) 講義科目、演習科目及び実験・実習科目のいずれの授業形態でもアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を行う。

(3) 上記の教育方法を通して、建築に関わる職業人として自立するための自発的な課題発見力と課題解決力、構想力とともに職業意識を涵養する。

3. 評価方法の考え方
授業科目ごとのシラバスにおいて定めている教育目標、到達目標、評価方法に基づき、当該基準を満たした学生に単位を授与する。

別表第 4 - 1 明星大学の入学者受け入れ方針

<p>明星大学（以下、本学）は、「学位授与の方針（DP）」に掲げた養成する人材像を達成するため、「学力の3要素」を踏まえ、入学前に身につけておくべき能力等を示した「入学者受入方針（AP）」を定め、これに基づいて各学部・学科における入学者選抜を実施する。</p> <p>（1）知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び各学部・学科の専門教育を受けるために必要な基本的な知識・技能を修得している。 <p>（2）思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を含めた実社会の課題や問題に対して、幅広く論理的に考える素養を備え、その考えを自身でまとめ、他者に伝えることができる。 <p>（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な学びに能動的に取り組み、様々な課題や問題に対して、自ら主体的に考え、解決に向けた行動を取るための素養を備えている。 ・本学での学びを経て自己を確立し、他者と協力して社会に貢献したいという強い意欲を有している。

別表第 4 - 2 学部・学科の入学者受け入れ方針

1. 理工学部	<p>（1）物理学系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育の成果として、大学において物理学を学ぶ際に必要な基本的な知識・技能を修得している。 ・科学現象に対して、数理的・論理的に考える素養を備え、その考えを自身でまとめ、他者に伝えることができる。 ・授業における実験・演習に積極的に取り組み、物理学の様々な問題に対して主体的に考え、学ぶ態度を備えている。 ・本学で物理学を学ぶことによって自己実現し、他者とコミュニケーションしながら人や社会に貢献しようという意欲を持っている。 <p>（2）生命科学・化学系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物科学及び分子化学に関する分野の高度な専門教育を受けるために必要な数学や理科、特に生物や化学の基礎学力並びに幅広い教養を修得している。 ・習得した生物や化学の知識を活かし、身の回りの現象を科学的に捉えて、論理的に考察することができる。 ・観察や考察した内容について、適切に文章などで表現し、他者に伝えることができる。 ・理科、特に生物や化学に関連する学問や実社会の諸問題に対し自ら主体的に考え、解決に向けて必要な学習に真摯に取り組むための素養を備えている。 ・様々な考えを持つ多様な人々と協力し、理科、特に生物や化学に関連する分野で社会に貢献したいという強い意欲を有している。 <p>（3）機械工学系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び機械工学系の専門教育を受けるために必要な数学、物理等の基本的知識・技能を習得している。 ・世界的な実社会での課題や問題を理解し、その技術的背景等を論理的に考える素養を備え、その考えを自身でまとめて、他者に伝えることができる。 ・実験実習においては協働して能動的に取り組み、様々な問題を発見、又、解決しようとする主体性を備えている。 <p>（4）電気電子工学系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業レベルの幅広い知識と、高校課程で物理・数学ⅡB・Ⅲを履修し、身に付けていること。 ・電気電子工学領域の基礎知識群とそれを基礎とした研究活動から生じる学術成果を獲得し、その成果を社会に積極的に発信するとともに、社会にて生じている諸問題の迅速な解決に応用する技能を有すること。 ・知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて迅速に判断し解決する思考力を有すること。 ・電気電子工学で修得する数学的思考力、物理的思考力、システム工学的思考力によって、課題に直面した際に、物事を論理的に分析し、迅速に問題解決に向けた判断を行う能力を有すること。 ・電気電子工学領域の基礎知識群とそれを基礎とした研究活動から生じる学術成果を社会に積極的に発信並びに表現できること。 ・電気電子工学の範囲のみならず、さまざまな内容に関心をもち、絶えず自ら自己研鑽することで、自らの周囲、社会への貢献及び国際的な観点からプロフェッショナルな仕事を意識すること。 ・電気電子工学にとらわれない独創性や創造性に富む発想力を有すること。 ・異文化を理解するための幅広い教養を身に付け、時代の変化に合わせ、積極的に社会と融和し、発展・改善してゆく資質を有すること。 <p>（5）環境科学系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学における教養教育及び環境科学系の専門教育を受けるために必要な基礎的な知識を修得している。 ・人間社会と環境のかかわりに関心をもち、そこにある問題等を考える素養を備え、自身の意見をまとめ、伝えることができる。 ・大学での学びに積極的に取り組み、環境分野において社会に貢献したいという強い意欲を有している。
---------	--

2. 人文学部	<p>(1) 国際コミュニケーション学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な教養を持っている人。英語又は中国語の学修、そして、異文化理解に対して強い意欲を持っている人。 ・グローバルに活躍する将来像を持った人。社会で使えるコミュニケーション能力を持っている人。 ・自分の考えや行動に責任を持ち、しっかり自己管理ができる人。留学やグループワークなどの体験学習を通して、社会人基礎力を伸ばせる人。 <p>(2) 人間社会学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び専門教育を受けるために必要な知識・技能を修得している。 ・物事について論理的に考えようとする強い意欲を有している。 ・社会調査の方法に関心を持ち、その方法を用いて社会的事象を分析したいという強い意欲を有している。 ・大学での学びを経て自己を確立し、人生について真摯に考えようとする強い意欲を有している。 ・現実の社会的な問題に関心を持ち、さまざまな問題の解決に向けた行動をとるための素養を備え、他者と協働して取り組みたいという強い意欲を有している。 ・論理的に考えようとする素養を備え、自分の考えをまとめる意欲を持ち、他者に伝えることができる。 ・多様な他者への関心を有している。 <p>(3) 日本文化学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の言語や文学、歴史、芸術についての基本的な知識を有している。 ・日本文化の事象を多面的かつ論理的に考察することができ、その考えを的確に表現し、伝えることができる。 ・国内外を問わず、文学や言語、芸術等の様々な社会的文化現象に興味があり、みずから文化に触れる能動性を有している。 ・積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。 <p>(4) 福祉実践学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育において幅広く学び、教養教育及び専門教育を受けるために必要な基本的な知識、生活者としての社会常識、情報検索などの社会生活に関する基礎的な技能・技術を ・社会の課題や問題に対して、社会福祉の視点から論理的に考えるための素養を備え、それを口頭及び文章で表現することができる。 ・コミュニケーション能力を有し、他者と協力して社会に貢献したいという強い意欲や態度を持っている。
3. 経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の主要教科について基礎的な知識や技能を身に付けている。 ・知識や情報を用いて問題を解決するための方法を自ら考え、他者に伝えることができる素養を備えている。 ・主体的に勉学に励む意思を有している。 ・自己を成長させ他者と協力して社会に貢献するという意思を有している。
4. 情報学部	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後の修学に必要な基礎学力としての高等学校までの諸科目の知識を有している人。 ・課題解決のために情報機器を適切に選択する素養を備える人、又それらを活用するための基本的な技術や技能を有している人。 ・与えられた課題や問題の解決に向けて「論理的思考」と「柔軟な判断」ができる人、又自身の思考や判断を適切に表現し伝えられる人。 ・複数の代替案から客観的に適切な選択肢を選ぶことができ、又その根拠を論理的に示すことができる人。 ・身近な課題を見付ける事ができ、その解決策を主体的に考える人。 ・情報学並びに周辺諸分野への深い関心を持ち、社会に積極的に貢献しようとする人。
5. 教育学部	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動をするうえで必要な技能についての基礎的な資質・能力を有している人。 ・学校教育又は保育・幼児教育の主体的な学習を経て自己を確立し、多様な人々と適切なコミュニケーションをとることができる人。 ・教育や関連する領域において適切に思考・判断する基礎的な資質・能力を有している人。 ・保育や教育に関心を持ち、真摯に学習する態度とその分野の仕事をしたいと意欲を有している人。 ・学校教育又は保育・幼児教育を学習する基礎的な学力や理解能力を有している人。

6. 経営学部	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校までの教育の成果として、大学における教養教育及び経営学部経営学科における経営に関する専門教育を受けるために必要な基本的な知識・技能を修得している。 ・多摩地域及び他地域を含めた実社会の課題や問題に対して、幅広く論理的に考える素養を備え、その考えを自身でまとめ、他者に伝えることができる。 ・経営に関する実践的な学びに能動的に取り組み、様々な課題や問題に対して、自ら主体的に考え、解決に向けた行動を取るための素養を備えている。 ・大学での学びを経て自己を確立し、他者と協力して社会に貢献したいと強い意欲を有していて、かつ、以下のような経営学部の5つのコース・カリキュラムに対応した興味・関心及び意欲を有している。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の活性化や住民の生活満足の向上に意欲のある人。 2. 観光をはじめ、ホスピタリティ、ブライダルビジネスなどサービス業に興味、関心のある人。 3. 起業や新規事業の立ち上げ、企業の事業承継について必要な知識を学ぶ意欲のある人。 4. 会計や財務の知識を身につけて金融機関や会計のプロフェッショナルを目指す意欲のある人。 5. 経営学の学習と実践を通じて実務家としての基本能力を高め、民間企業及び官公庁の即戦力として活躍できる人材を目指す意欲のある人。
7. デザイン学部	<ul style="list-style-type: none"> ・大学における教養教育及びデザイン学科の企画や表現に関する専門教育を受けるために必要な基礎学力と表現技能を有している。 ・ものごとを筋道立てて考えながら判断し、自分の考えやアイデアを企画提案としてまとめ、他者に分かりやすく魅力的に表現する素養を備えている。 ・課題や問題に対して自ら積極的に取り組み、解決に向けて粘り強く努力する素養を備えていると共に、実践的な学びを通じて自己を確立し、他者と協力しながらデザインの力を社会に活かしたいという意欲を有している。
8. 心理学部	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語の基礎学力を備えている人。 ・「私」や自己の内面としての「心」にたがえてなく、人間同士や人間と環境との関わりとしての「心」にも眼を向けられる、幅広い視野を持つ人。 ・「文系」や「理系」の枠にとらわれず、実験、検査、調査、統計処理、外国語文献読解など、人間を理解するための様々なスキルの修得に意欲的に取り組める人。 ・心理学の専門科目の授業に、常に真剣に取り組める人。 ・心理学の特定の一領域にたがえてなく、多様な領域や考え方に興味を持って幅広く学びたいと考える人。 ・友人や教員と協調して、自ら目標を定め計画的に学びを深めて行ける人。
9. 建築学部	<ul style="list-style-type: none"> ・建築学を学ぶ上で必要となる基礎学力を有している人。 ・世の中の様々な環境の変化に関心を持ち、学んだ知識と技能を用いて社会の課題や問題を解決しようとする意志を有している人。 ・社会の課題や問題に対して、正しく、的確な情報を収集し、論理的に考え、自ら判断することができる人。 ・自らの考えを自らの言葉でまとめ、他者に対して、正しく、的確に表現することができる人。 ・積極的に他者と関わり、自分と異なる考えや価値観を尊重しながら、他者と協調的な関係を築こうとする意志を有している人。

別表第5 各学部学科の進級基準

学部学科		進級時期	進級基準		
			在学期間	修得単位数※1	指定科目
理工学部	総合理工学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	55	
		3年生から4年生	3年以上	90	
人文学部	国際コミュニケーション学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	基礎研究
		3年生から4年生	3年以上	88	
	人間社会学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	社会学への招待A、社会学への招待B、社会学研究1A、社会学研究1B、レポート作成とプレゼンテーション、フィールドワークへの招待
		3年生から4年生	3年以上	88	社会学研究2A、社会学研究2B
	日本文化学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	日本文化体験
		3年生から4年生	3年以上	88	
	福祉実践学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	53	社会福祉入門、現代社会と福祉1
		3年生から4年生	3年以上	88	専門演習1（基礎）、専門演習2（応用）
経済学部	経済学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	50	
		3年生から4年生	3年以上	90	
情報学部	情報学科	1年生から2年生	1年以上	-	1年生の学科必修科目（※2）16単位のうち、8単位以上修得すること。
		2年生から3年生	2年以上	-	1年生及び2年生の学科必修科目（※2）24単位のうち、16単位以上修得すること。
		3年生から4年生	3年以上	-	1年生及び2年生の学科必修科目（※2）24単位の全てと、「基礎情報数学」、「基礎解析学」、「基礎代数学」、「基礎統計学」から2科目以上の単位を修得すること。
教育学部	教育学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	-	-	
		3年生から4年生	3年以上	90	
経営学部	経営学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	44	
		3年生から4年生	3年以上	88	
デザイン学部	デザイン学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	45	企画表現1（対話・文章）、企画表現2（調査・分析）
		3年生から4年生	3年以上	80	企画表現3（思考・発想）、企画表現4（プレゼンテーション）
心理学部	心理学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	50	心理学概論A、心理学概論B、心理学統計法1、心理学統計法2、心理学研究法
		3年生から4年生	3年以上	88	心理学実験、心理学実験実習、心理的アセスメント、心理的アセスメント実習
建築学部	建築学科	1年生から2年生	-	-	
		2年生から3年生	2年以上	55	
		3年生から4年生	3年以上	90	

※1 科目区分毎に上限を設け、その履修方法は「履修の手引」に定める。

※2 学科必修科目の配当学年は「履修の手引」に定める。

別表第6-1 卒業の要件 全学共通科目

科目区分		必修科目		卒業に必要な単位数	
		科目名	単位数		
全学共通科目	明星大学と多摩	自立と体験1 (大学生生活の基盤をつくる)	2単位	2単位以上	32単位
	情報の活用とコミュニケーション	情報の活用と倫理	2単位	10単位以上	
		外国語 (1A・1B・2A・2B)	8単位 (各1単位)		
		外国語 (3A・3B・4A・4B)			
	幅広い教養	科学的思考科目群		2単位以上	
		現代社会課題解決科目群		2単位以上	
		人文知探究科目群		2単位以上	
心と体の健康	健康・スポーツ科学論	2単位	2単位以上		

(備考)

- ※1 外国語科目について、各学部が定める同一言語で8単位修得すること。
- ※2 外国語科目について、外国人留学生は「日本語」が必修。原則として、母国語の単位は認定しない。
- ※3 外国人留学生は「日本事情A」「日本事情B」が必修。

別表第6-2 卒業の要件 理工学部

(1) 総合理工学科 物理学系

科目区分			卒業に必要な単位数		備考					
全学共通科目			3 2 単位		※1					
学科科目										
学科共通科目	必修科目	1 4 単位	2 8 単位まで	9 2 単位	1 2 4 単位					
	選択科目	1 4 単位まで								
物理学系科目	必修科目	2 8 単位	6 4 単位以上			9 2 単位	1 2 4 単位			
	選択科目									
卒業研究	必修科目	8 単位						6 4 単位以上	9 2 単位	1 2 4 単位
	選択科目									
全学共通キャリア形成科目					※3					
	自由科目									

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 学系科目および卒業研究は、必修科目単位を含めて、合計64単位以上を修得すること（他学系の科目を8単位まで含むことができる）。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

(2) 総合理工学科 生命科学・化学系

科目区分			卒業に必要な単位数		備考					
全学共通科目			3 2 単位		※1					
学科科目										
学科共通科目	必修科目	1 6 単位	2 8 単位まで	9 2 単位	1 2 4 単位					
	選択科目	1 2 単位まで								
生命科学・化学系科目	必修科目	3 4 単位	6 4 単位以上			9 2 単位	1 2 4 単位			
	選択科目									
卒業研究	必修科目	1 0 単位						6 4 単位以上	9 2 単位	1 2 4 単位
	選択科目									
全学共通キャリア形成科目					※3					
	自由科目									

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 学系科目および卒業研究は、必修科目単位を含めて、合計64単位以上を修得すること（他学系の科目を8単位まで含むことができる）。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

(3) 総合理工学科 機械工学系

科目区分			卒業に必要な単位数		備考					
全学共通科目			3 2 単位		※1					
学科科目										
学科共通科目	必修科目	1 6 単位	2 8 単位まで	9 2 単位	1 2 4 単位					
	選択科目	1 2 単位まで								
機械工学系科目	必修科目	3 6 単位	6 4 単位以上			9 2 単位	1 2 4 単位			
	選択科目									
卒業研究	必修科目	8 単位						6 4 単位以上	9 2 単位	1 2 4 単位
	選択科目									
全学共通キャリア形成科目					※3					
	自由科目									

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 学系科目および卒業研究は、必修科目単位を含めて、合計64単位以上を修得すること（他学系の科目を8単位まで含むことができる）。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

(4) 総合理工学科 電気電子工学系

科目区分			卒業に必要な単位数		備考					
全学共通科目			3 2 単位		※1					
学科科目										
学科共通科目	必修科目	1 6 単位	2 8 単位まで	9 2 単位	1 2 4 単位					
	選択科目	1 2 単位まで								
電気電子工学系科目	必修科目	1 8 単位	6 4 単位以上			9 2 単位	1 2 4 単位			
	選択科目									
卒業研究								6 4 単位以上	9 2 単位	1 2 4 単位
必修科目	1 0 単位									
全学共通キャリア形成科目					※3					
自由科目										

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。

※2 学系科目および卒業研究は、必修科目単位を含めて、合計64単位以上を修得すること(他学系の科目を8単位まで含むことができる)。

※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。

※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

(5) 総合理工学科 環境科学系

科目区分			卒業に必要な単位数		備考					
全学共通科目			3 2 単位		※1					
学科科目										
学科共通科目	必修科目	1 6 単位	2 8 単位まで	9 2 単位	1 2 4 単位					
	選択科目	1 2 単位まで								
環境科学系科目	必修科目	2 5 単位	6 4 単位以上			9 2 単位	1 2 4 単位			
	選択科目									
卒業研究								6 4 単位以上	9 2 単位	1 2 4 単位
必修科目	1 0 単位									
全学共通キャリア形成科目					※3					
自由科目										

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。

※2 学系科目および卒業研究は、必修科目単位を含めて、合計64単位以上を修得すること(他学系の科目を8単位まで含むことができる)。

※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。

※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

別表第6-3 卒業の要件 人文学部

(1) 国際コミュニケーション学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		70単位以上	92単位	124単位
必修科目	22単位			
選択必修科目 ※2	12単位			
選択科目				
学部共通科目		0～22単位		※3
全学共通キャリア形成科目				※4
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「スペイン語」のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※2 選択必修科目は、同一言語で12単位修得すること。
- ※3 所属する学科の学科科目は学部共通科目として算入しない。
- ※4 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に6単位まで含むことができる。
- ※5 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含むことができる。

(2) 人間社会学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		68単位以上	92単位	124単位
基礎科目	28単位以上			
専門科目	12単位以上			
応用科目	26単位以上			
社会調査関連科目				
学部共通科目		0～24単位		※2
選択科目				
全学共通キャリア形成科目				※3
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「スペイン語」のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※2 所属する学科の学科科目は学部共通科目として算入しない。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に6単位まで含むことができる。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含むことができる。

(3) 日本文化学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		62単位以上	92単位	124単位
必修科目	32単位			
選択必修科目 ※5	4単位			
選択科目	26単位以上			
学部共通科目		0～30単位		※2
選択科目				
全学共通キャリア形成科目				※3
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「スペイン語」のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※2 所属する学科の学科科目は学部共通科目として算入しない。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に6単位まで含むことができる。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含むことができる。
- ※5 選択必修科目は、[日本文化特講1A～1D]と[日本文化特講2A～2D]のそれぞれから1科目ずつ、計4単位を必修とする。

(4) 福祉実践学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		82単位以上	92単位	124単位
必修科目	26単位			
選択科目	56単位以上			
学部共通科目		0～10単位		※2
選択科目				
全学共通キャリア形成科目				※3
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「スペイン語」のうち同一言語で8単位修得すること。
- ※2 所属する学科の学科科目は学部共通科目として算入しない。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に6単位まで含むことができる。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含むことができる。

別表第6-4 卒業の要件 経済学部

(1) 経済学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		92単位	124単位	
必修科目	20単位			
選択必修科目 ※2	4単位以上			
選択科目				
全学共通キャリア形成科目				※3
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 選択必修科目は、「マイクロ経済学1とマイクロ経済学2」又は「マクロ経済学1とマクロ経済学2」のいずれか4単位を修得すること。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件としてキャリア選択科目に4単位まで含むことができる。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含めることができる。ただし、他学部履修が認められるのは、累積GPA「2.0」以上の学生に限る。

別表第6-5 卒業の要件 情報学部

(1) 情報学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		92単位	124単位	
必修科目	40単位			
選択必修科目	4単位以上			
選択科目				
全学共通キャリア形成科目				※2
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件としてキャリア選択科目に4単位まで含むことができる。
- ※3 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含めることができる。ただし、他学部履修が認められるのは、累積GPA「2.0」以上の学生に限る。

別表第6-6 卒業の要件 教育学部

(1) 教育学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1 ※2
学科科目		92単位	124単位	
必修科目	23単位			
選択科目				
学部共通科目				
学部共通科目	選択科目	0～8単位		
全学共通キャリア形成科目				※3
自由科目				

(備考)

- ※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。
- ※2 学科科目で92単位を超えて修得した単位のうち、9単位まで含むことができる。
- ※3 全学共通キャリア形成科目は、自由科目のため、進級要件・卒業要件に算入しない。
- ※4 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に8単位まで含むことができる。

別表第6-7 卒業の要件 経営学部

(1) 経営学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		92単位	124単位	
必修科目	28単位			
選択科目	64単位			
全学共通キャリア形成科目				※2
自由科目				

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。

※2 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件としてキャリア選択科目に4単位まで含むことができる。

※3 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

別表第6-8 卒業の要件 デザイン学部

(1) デザイン学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		92単位	124単位	
理論科目	10単位以上			
技術実習科目	14単位			
企画表現演習科目	18単位			
デザイン分野演習科目	18単位以上			
キャリア科目	8単位以上			
デザインビジネス科目	4単位以上			
卒業研究	8単位			
全学共通キャリア形成科目				※2
自由科目				

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。

※2 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の『キャリア科目』に4単位まで含むことができる。

※3 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に4単位まで含むことができる。

別表第6-9 卒業の要件 心理学部

(1) 心理学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目		92単位	124単位	
基礎科目	18単位			
基幹科目	20単位以上			
発展科目	40単位以上			
臨床実践科目				
キャリア形成科目				
研究実践科目	12単位			
全学共通キャリア形成科目				※2
自由科目				

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「スペイン語」のうち同一言語で8単位修得すること。

※2 全学共通キャリア形成科目を6単位まで含めることができる。ただし、『キャリア形成科目』の「心理学で拓くキャリア」2単位を修得した場合には、4単位までとする。

※3 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として算入しない。

別表第6-10 卒業の要件 建築学部

(1) 建築学科

科目区分		卒業に必要な単位数		備考
全学共通科目		32単位		※1
学科科目				
基礎科目	8単位以上 (必修科目単位：8単位)	92単位	124単位	
専門基幹科目	44単位以上 (必修科目単位：40単位)			
専門発展科目	20単位以上 (必修科目単位：8単位) (選択必修科目単位：2単位)			
全学共通キャリア形成科目				※2
自由科目				

(備考)

※1 外国語科目は、「英語」を8単位修得すること。

※2 全学共通キャリア形成科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の専門発展科目に4単位まで含むことができる。

※3 他学部履修科目は、進級要件・卒業要件として学科科目の選択科目に4単位まで含むことができる。